

みどり市地域公共交通計画 (素案)

令和8年●月

みどり市

目次

第1章 計画の概要	1-1
1-1 計画策定の背景・目的	1-2
1-2 計画の区域	1-2
1-3 計画の期間	1-2
1-4 本計画と各種計画等の関係	1-3
第2章 みどり市における公共交通の課題	2-1
2-1 みどり市地域公共交通の課題（テーマ）の整理	2-2
第3章 基本的な方針・目標、施策	3-1
3-1 基本的な方針・目標	3-2
3-2 みどり市公共交通計画での公共交通ネットワーク	3-3
3-3 目標達成のための施策・事業	3-12
第4章 計画の評価・進行管理	4-1
4-1 評価指標・目標値	4-2
4-2 計画の推進・進行管理	4-7

第1章 計画の概要

第1章 計画の概要

1-1 計画策定の背景・目的

持続可能な運送サービスの提供を確保するため、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が2020年（令和2年）11月に施行され、地方公共団体には地域公共交通計画の策定が努力義務化されました。

本市では、人口減少や少子高齢化の進行に加え、ライフスタイルの変化などにより公共交通の利用者が減少しています。さらに、日常生活や通勤・通学の移動を支えるとともに、本市の特徴でもある4つの鉄道においても利用者が減少しているのが現状です。

こうした背景を踏まえ、「みどり市地域公共交通計画（以下、「本計画」とする）」を策定し、計画に沿った取組を進めることで、地域のまちづくりに活かすとともに、公共交通の利用促進を図ります。

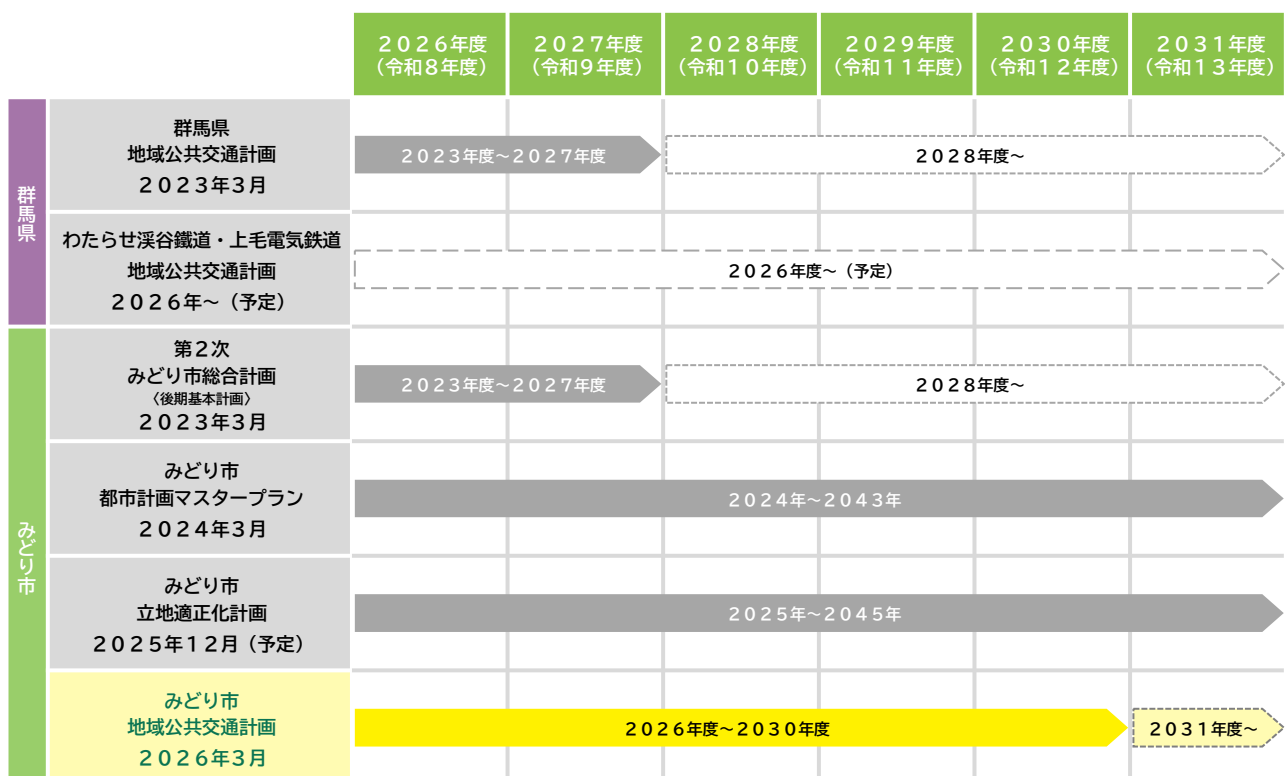
1-2 計画の区域

本計画の対象は、みどり市全域とします。

1-3 計画の期間

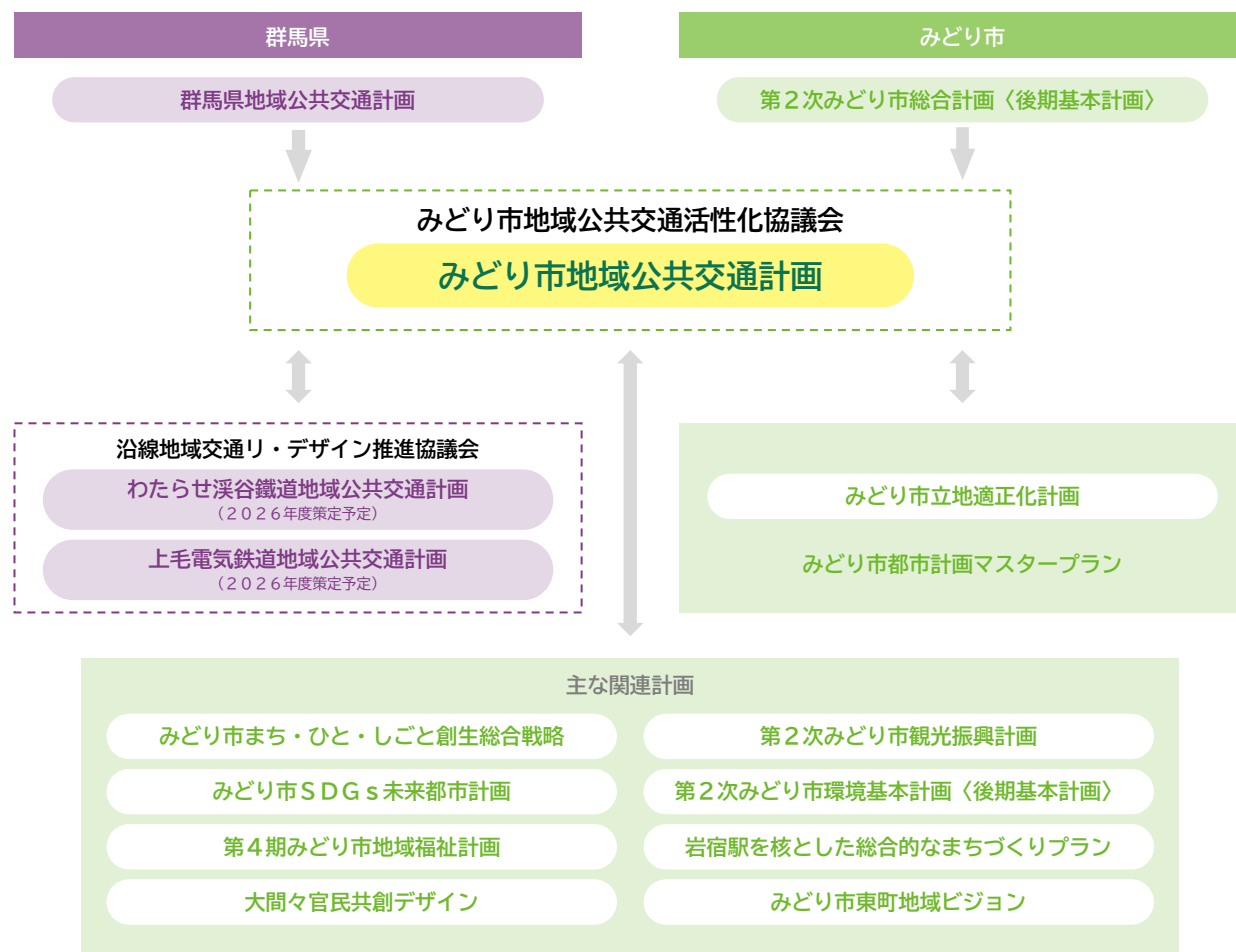
本計画の計画期間は、2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）までの5年間とします。

地域公共交通を取り巻く環境の変化に応じて、随時見直しを行います。



1-4 本計画と各種計画等の関係

本計画は、本市の最上位計画である「第2次みどり市総合計画」および「群馬県地域公共交通計画（群馬県交通まちづくり戦略）」を上位計画として位置づけています。あわせて、本市の各種関連計画との整合を図り、相互に連携しながら推進します。



(1) 群馬県の主な計画

① 群馬県地域公共交通計画（群馬県交通まちづくり戦略）

概要		20年後（2042年）の目指すべき将来像の実現に向け、まちづくりと連携した公共交通のあるべき姿を描き、公共交通とまちづくり、それぞれが担うべき役割や取組の方向性を明らかにする計画。
策定年		2023年（令和5年）3月
計画期間		2023年度（令和5年度）～2027年（令和9年度）
目指すべき都市像		ぐんまらしい「快疎」な空間の形成とそれを支える多様な移動手段が整った社会
基本方針		<ul style="list-style-type: none"> ・ ニューノーマルにも対応した安全・快適で持続可能な公共交通サービスの確保・維持 ・ DX・新技術導入による公共交通サービスの効率化・高度化 ・ 交通まちづくり分野の脱炭素化の推進 ・ まちづくりと連携した基幹公共交通軸の確保・維持（市町村域を越える広域的な公共交通） ・ まちづくりと連携した地域的な暮らしの足の確保・維持（市町村内における多様な移動手段）
東毛広域圏の公共交通に関する記載	公共交通の取組方針（都市部）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軸となる幹線バスの配置と利用しやすい運行サービス（運行本数）の提供 ・ 鉄道、バス、その他さまざまな移動手段相互の連携、利便性の向上 ・ 交通弱者を対象とした、生活の質の確保につながる適切な移動手段の検討・導入 ・ 災害リスクを抱えた都市部市街地におけるモビリティ確保。
	公共交通の取組方針（郊外部）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定常的な利用者、交通弱者、来街者にとって利用しやすい交通手段の検討 ・ 一体的な生活圏の形成に対応した、中心市と郊外を結ぶバスサービス、もしくはそれに変わる運行サービスの提供 ・ 交通弱者を対象とした、生活の質の確保につながる適切な移動手段の検討・導入 ・ 災害リスクを抱えた郊外部市街地におけるモビリティ確保
	公共交通の取組方針（中山間地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通弱者を対象とした、生活の質の確保につながる適切な移動手段の検討・導入 ・ 定常的な利用者、交通弱者、来街者にとって利用しやすい交通手段の検討

第1章 計画の概要

② わたらせ渓谷鐵道・上毛電気鐵道「リ・デザイン推進協議会」

群馬県では、中小私鉄3社（上毛電気鐵道・上信電鉄・わたらせ渓谷鐵道）が運行する地域鐵道について、利用者の視点に立った今後のあり方を議論し、沿線地域交通全体の最適化及び長期的な交通サービスの安定化を実現する方策を検討するため、「群馬県地域鐵道のあり方検討会」を設置し、協議を進めてきました。

上記を踏まえ、群馬県では本市に関係する「わたらせ渓谷鐵道」「上毛電気鐵道」において、沿線地域交通の再構築や、沿線地域における交通計画の策定などを目的として、令和5年度から「わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」「上毛電気鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」を設立し、沿線自治体である本市を含めた関係者と協議を重ねてきました。

両鐵道においては、バスへの転換を含めた検討を重ねた結果、全線鐵道として存続させることとして、今後のあり方に関する基本方針を取りまとめました。今後は、この基本方針に基づき、沿線地域の価値を最大化するための具体的な取り組みや、群馬県及び沿線市が策定主体となる沿線地域の交通計画の策定（2026年度策定予定）に向けて、引き続き関係者と協議を重ねていくこととしています。

(2) みどり市の主な計画

① 第2次みどり市総合計画 後期基本計画

概要		みどり市の最上位計画であり、将来像を「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」とし、時代の変化を踏まえつつ、前期計画における成果や課題を再点検し、第2次みどり市総合計画の総仕上げとして、後半部分にあたる5年間の取り組みを明らかにする計画。
策定年		2023年（令和5年）3月
計画期間		2023年度（令和5年度）～2027年（令和9年度）
まちづくりの理念		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人が生きることと豊かな自然が共生するみどり市をつくれます【人と自然の共生】 ・ 人の活動とまちに資源が織りなす豊かさづくりに取り組みます【地域資源の活用】 ・ 人とひとが助け合い、協働してまちづくりに取り組みます【助け合いと協働】
将来像		輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市
基本戦略		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人が輝くまちづくり ・ 安全で快適なまちづくり ・ 活力あふれるまちづくり ・ 自立と協働のまちづくり
公共交通に関する記載	めざす姿	公共交通の利便性が高まるとともに、交通弱者の交通手段が確保されます。
	現状と課題	利用者の伸び悩み・交通弱者の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転免許返納の増加 ・ バス利用者の伸び悩み ・ 鉄道利用者の減少
	方針	公共交通の利便性を高め、移動に困らない生活を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バスの効率的な運行 ・ 鉄道の安定的な運行 ・ 岩宿駅の整備
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスの運行形態の変更による交通結節点の強化 ・ 交通弱者・過疎地域に対する支援拡充

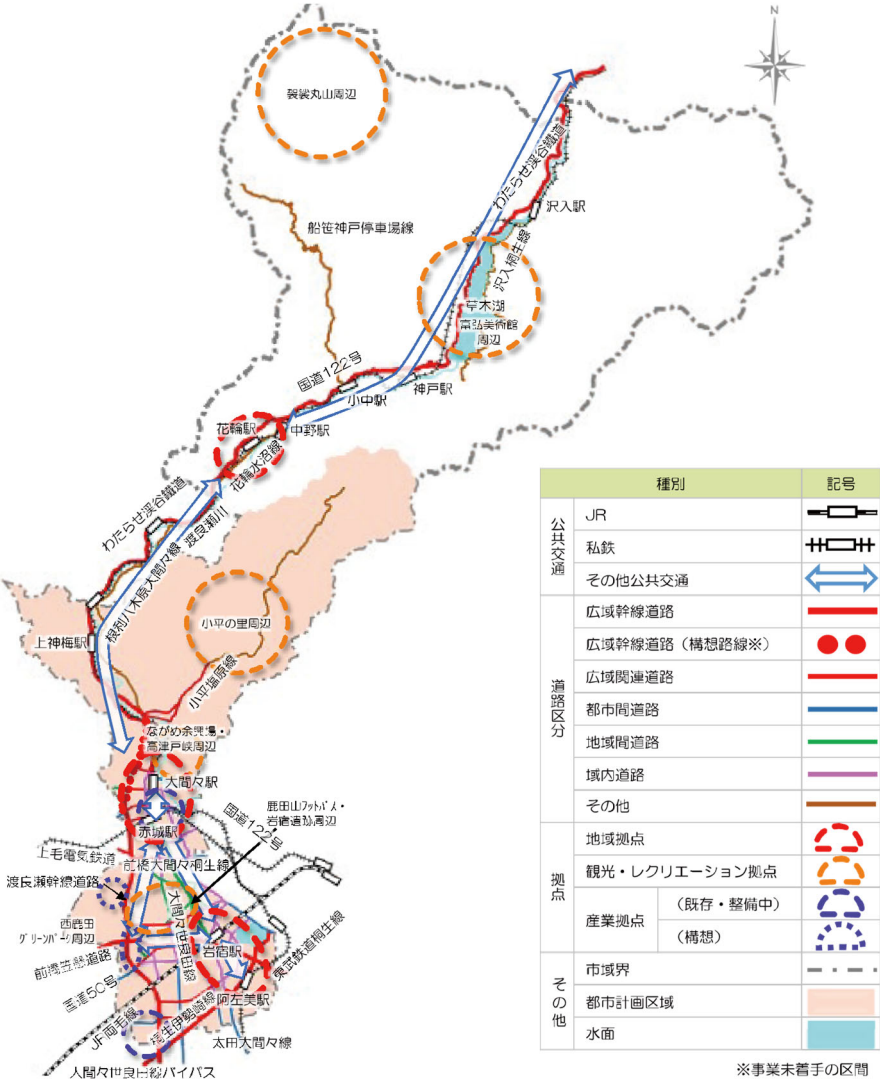
第1章 計画の概要

② みどり市都市計画マスタープラン

概要	みどり市の都市計画に関する基本的な方針として、まちづくりの観点から、みどり市が抱える課題を把握し、今後のまちづくりの方向を見据えて、必要な社会資本の整備について戦略的かつ計画的に取り組むための計画。																																								
策定年	2024年（令和6年）3月																																								
計画期間	2024年（令和6年）～2043年（令和25年）																																								
まちづくりの理念	豊かな自然と多様な特性を生かし、人々が心豊かに生活できるまちづくりの実現																																								
将来像	輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市（総合計画を踏襲）																																								
将来都市構造（拠点）	<p>地域拠点（地域住民の生活と地域の発展を支える中心として、商業、行政サービスをはじめとする多様な都市機能の充実を図る）</p> <ul style="list-style-type: none">笠懸地域拠点（岩宿駅・阿左美駅周辺）、大間々地域拠点（赤城駅・大間々駅周辺）、東地域拠点（花輪駅周辺）観光・レクリエーション拠点（自然資源や歴史資源を守りながら、交流人口の増加にも配慮し、観光やレクリエーションの場として適正かつ積極的に活用していく）岩宿遺跡、西鹿田グリーンパーク・鹿田山フットパス、ながめ余興場・高津戸峡、小平の里、富弘美術館、袈裟丸山																																								
将来都市構造（都市軸）	<p>中心軸（拠点間同士を結び、みどり市と周辺都市との連携の強化を図る）</p> <ul style="list-style-type: none">わたらせ渓谷鐵道 <p>地域間交通軸（地域の連携をバス等の公共交通ネットワークで補うことにより、機能強化を図る）</p> <ul style="list-style-type: none">大間々地域から東地域を經由し日光市まで結ぶライン鉄道が連携していない大間々地域と笠懸地域を結ぶライン																																								
将来都市像	 <table><thead><tr><th>種別</th><th>記号</th></tr></thead><tbody><tr><td>土地利用</td><td></td></tr><tr><td>市街地・農地共生利用</td><td></td></tr><tr><td>自然環境・交流利用</td><td></td></tr><tr><td>拠点</td><td></td></tr><tr><td>地域拠点</td><td></td></tr><tr><td>観光・レクリエーション拠点</td><td></td></tr><tr><td>産業拠点</td><td></td></tr><tr><td>（既存・整備中）</td><td></td></tr><tr><td>（構想）</td><td></td></tr><tr><td>都市軸</td><td></td></tr><tr><td>中心軸</td><td></td></tr><tr><td>広域交流軸</td><td></td></tr><tr><td>地域間交通軸</td><td></td></tr><tr><td>主要道路</td><td></td></tr><tr><td>構想路線</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td></tr><tr><td>市境界</td><td></td></tr><tr><td>都市計画区域</td><td></td></tr><tr><td>水面</td><td></td></tr></tbody></table>	種別	記号	土地利用		市街地・農地共生利用		自然環境・交流利用		拠点		地域拠点		観光・レクリエーション拠点		産業拠点		（既存・整備中）		（構想）		都市軸		中心軸		広域交流軸		地域間交通軸		主要道路		構想路線		その他		市境界		都市計画区域		水面	
種別	記号																																								
土地利用																																									
市街地・農地共生利用																																									
自然環境・交流利用																																									
拠点																																									
地域拠点																																									
観光・レクリエーション拠点																																									
産業拠点																																									
（既存・整備中）																																									
（構想）																																									
都市軸																																									
中心軸																																									
広域交流軸																																									
地域間交通軸																																									
主要道路																																									
構想路線																																									
その他																																									
市境界																																									
都市計画区域																																									
水面																																									

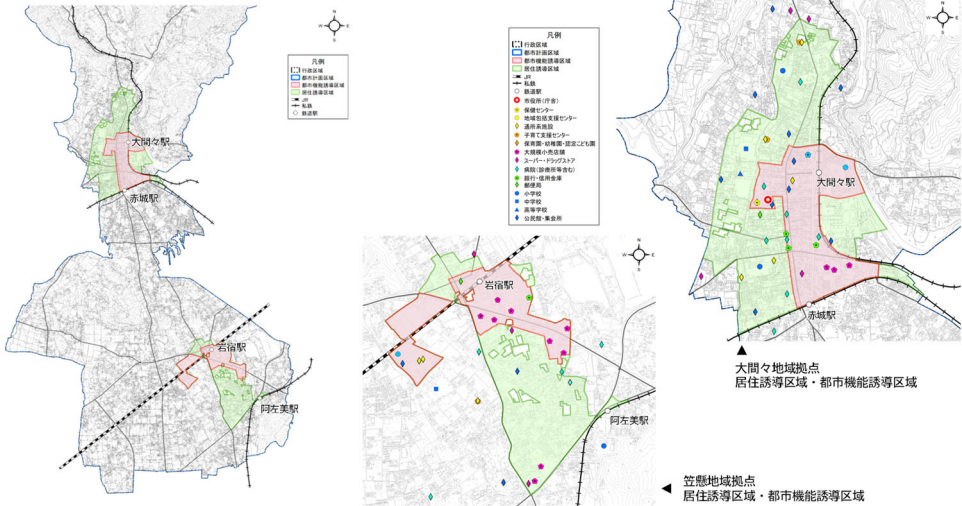
方針	地域の連携強化と市民生活に適した交通ネットワークの形成
施策	すべての人が使いやすい公共交通にする
取組	<ul style="list-style-type: none">・「みどり市地域公共交通計画」の策定等による計画的な交通ネットワークの構築・バスと鉄道の連携強化による公共交通を利用しやすい環境づくりの推進・すべての利用者に優しい駅舎や車両等の整備促進・市民の利便性向上に向けた、地域の実情に合ったバス運行の推進・歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた効果的・効率的な運行の推進・利用者の拡大や利便性・効率性を高める新しい移動サービス等を導入した公共交通体系の整備推進・鉄道駅周辺整備による鉄道利用者等の利便性向上の推進・公共交通網の充実化に向けた施設整備を関係機関に要請
将来イメージ	<p>使いやすい公共交通</p> <ul style="list-style-type: none">・公共交通機関や多様な交通手段を活用し、いつでも誰でもどこへでも自由に移動ができる・運転免許証を返納しても、鉄道やバスで気軽に外出し買い物や通院ができる

整備方針図

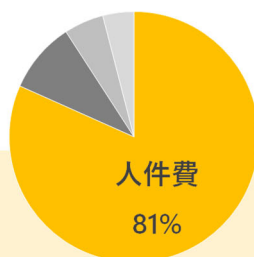


第1章 計画の概要

③ みどり市立地適正化計画

	<p>「みどり市都市計画マスタープラン」の将来像の実現に向け、生活サービスへのアクセスを確保しながら一定のエリアにおいて人口密度を維持していく「まちのまとまり」の維持・形成や「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を図り、都市構造の再編を行うための計画。</p>
<p>概要</p>	
<p>策定年</p>	<p>2025年（令和7年）12月（予定）</p>
<p>計画期間</p>	<p>2025年（令和7年）～2045年（令和27年）</p>
<p>居住誘導区域 都市機能誘導区域</p>	
<p>公共交通に関する記載</p>	<p>まちづくりの方針</p> <p>歩いて暮らせるまちにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利便性が高く既存施設が集積している地区や鉄道駅周辺では、市民の暮らしを支える施設の充実と道路などの都市基盤の整備を進めることにより、市民が歩いて暮らせるコンパクトな市街地の形成を目指します。
	<p>誘導方針</p> <p>すべての人が使いやすい公共交通の維持・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 拠点間を有機的に結び、誰もが使いやすく、移動しやすい公共交通ネットワークの維持・確保に努め、高齢者や障がい者などの利用にも配慮した鉄道駅等の交通結節機能の強化を図り、まちのまとまり等へのアクセス性の向上を図ります。
	<p>誘導施策の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域拠点の核となる鉄道駅周辺の交通結節機能や歩行環境の改善、バスと鉄道の連携強化などにより、拠点間や周辺都市をつなぐ誰もが使いやすく、移動しやすい公共交通ネットワークの維持・確保に努めます。 高齢者や障がい者にも配慮したすべての人が使いやすい駅周辺環境の整備を推進し、鉄道利用者等の利便性向上を図ります。
	<p>誘導施策</p> <ul style="list-style-type: none"> みどり市地域公共交通計画の策定 駅周辺の交通結節機能や歩行環境の改善 バスと鉄道の連携強化による利用しやすい環境づくりの推進 拠点間や周辺都市をつなぐ公共交通ネットワークの構築 歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた効果的・効率的な運行の検討 鉄道駅周辺整備による鉄道利用者等の利便性向上の推進

公共交通を維持するための費用の話。



私たちの移動を支える公共交通を維持していくには多くの費用がかかります。

現在みどり市で運行しているバスでは、人件費が全体の約8割を占めています。これは、運転手や整備士など、バスを安全に走らせるために欠かせない方々のお給料です。

費用の多くは皆さまに納めていただいている税金から支払われています。税金を無駄にせず、より便利に活用する方法を「みどり市地域公共交通活性化協議会」で検討していきます。

バスがなくなってしまう・・・？

人口減少や人手不足により、地域のバス運行を取り巻く状況は年々厳しくなっています。しかし、バスは通勤・通学、通院や買い物など、生活の基盤を支える重要な役割を担っています。

地域の公共交通を将来へつなげるには、行政の支援や事業者の努力だけでは限界があります。子どもから高齢者まで、誰もが安心して移動できるまちを守るために、今こそ地域全体で「どうすればバスが走り続けられるか」を考えることが大切です。

“いつもは車だけど、今日はバスで行ってみよう”

——そんな小さな選択が、まちの未来を支える第一歩になるかもしれません。

第2章 みどり市における公共交通の課題

第2章 みどり市における公共交通の課題

2-1 みどり市地域公共交通の課題（テーマ）の整理

既存データ、アンケート調査結果、事業者ヒアリング結果、近年の社会情勢などを踏まえ、本市における公共交通に関する問題点を整理し、「利用者」「持続可能性（公共交通のあり方）」の視点から課題（テーマ）を設定しました。

視点		課題（テーマ）
利用者	市民	◎テーマ①：多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築
	高校生	◎テーマ②：市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保
	高齢者	◎テーマ③：高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編
	観光客	◎テーマ④：鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築
持続可能性 （公共交通のあり方）	安心・安全 魅力向上・発信 収入確保	◎テーマ⑤：市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供
	意識醸成 連携強化	◎テーマ⑥：地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化
	最適化 支出抑制 DX・新技術	◎テーマ⑦：笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

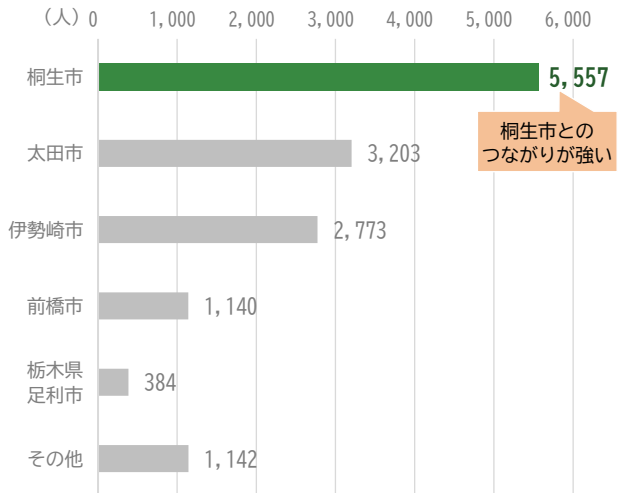
◎テーマ①：多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築

視点：市民

- 市民の通勤を含め、幅広い年代で自動車利用が多く、特にみどり市北部では「自分で運転する」ため公共交通を利用しない傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。

◎ 市民の通勤の状況

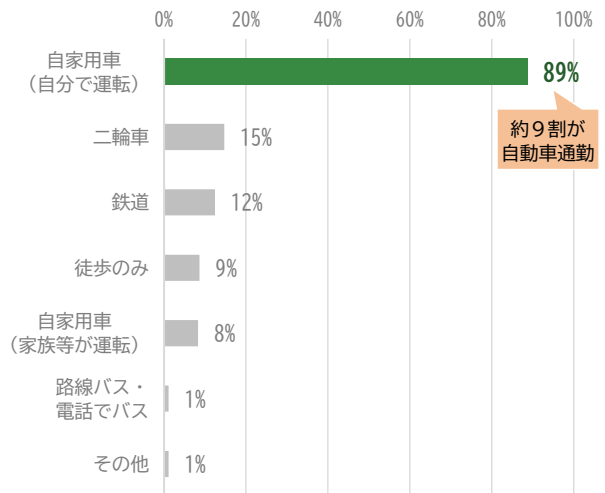
● みどり市からの通勤先



資料：令和2年度国勢調査

◎ 自動車通勤率の高さ

● 市民の通勤時の移動手段（59歳未満）



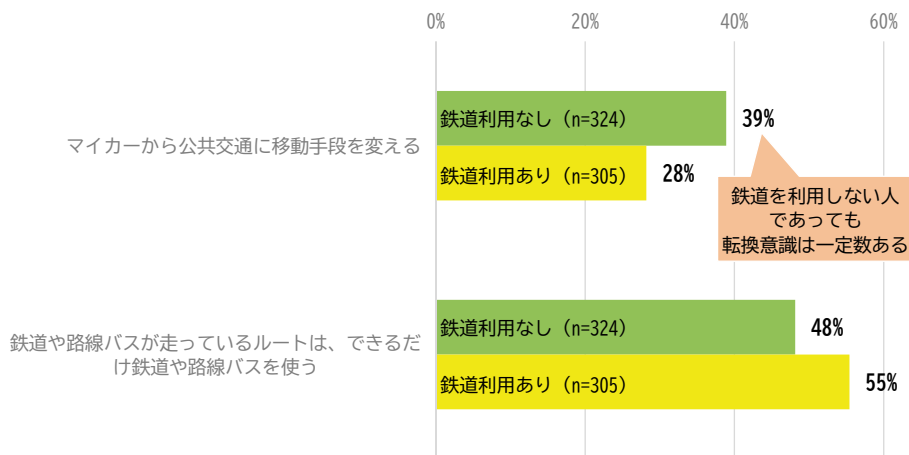
資料：一般アンケート調査結果

※複数回答

- マイカーから公共交通への転換意識は高いものの、実際に公共交通を利用している人は少ない状況となっている。

◎ マイカーから公共交通への転換意識は一定数ある

● 公共交通の維持・発展のためにできること



資料：一般アンケート調査結果

※「鉄道利用あり」は、「週に5日以上利用～年に数回程度利用」と回答した人を対象としている

第2章 みどり市における公共交通の課題

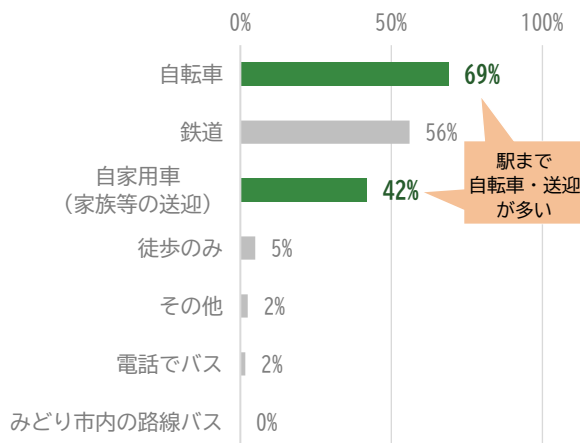
◎テーマ②：市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保

視点：高校生

- 市外へ通学する生徒は路線バスを利用できておらず、駅へのアクセス手段として自転車や保護者の送迎に頼らざるを得ない状況であり、交通事故のリスクや交通渋滞が発生、保護者への負担の増加が懸念される。
- 高校生が多く住む笠懸町の南西地域では、路線バスが整備されておらず、駅までの手段が限られている。

● 駅・学校までは自転車・送迎で移動

- 市内高校生の通学手段（大間々高校生を除く）



資料：高校生アンケート調査結果

● 路線バス・駅整備の必要性

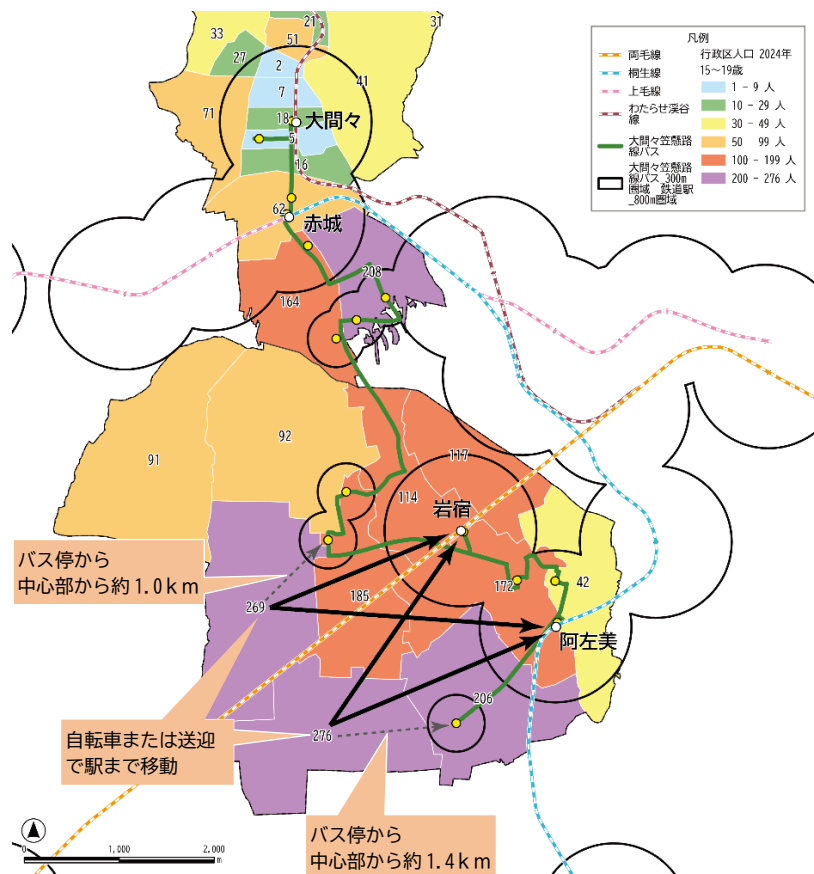
- 高校生の声

- ・ 市役所から岩宿駅までのバスを通学に利用したが、通学時間帯には運行しておらず、不便を感じている。
- ・ 自宅近くにバス停がなく、便数も少ないため利用したい時間に運行していない。高校生が通学に利用しやすいよう、バス停の増設と運行時間の改善を求める。
- ・ 岩宿駅への登校時に自転車を利用しているが、車で送迎する保護者の車両と接触する可能性があり、危険を感じているため、状況の改善を求める。

資料：高校生アンケート調査結果（自由意見）

● 笠懸町の南西地域の高校生の通学手段は駅までの移動を自転車か送迎に依存

- 鉄道駅から 800m、大間々・笠懸路線バス停から 300m の範囲



資料：みどり市、高校生アンケート調査結果

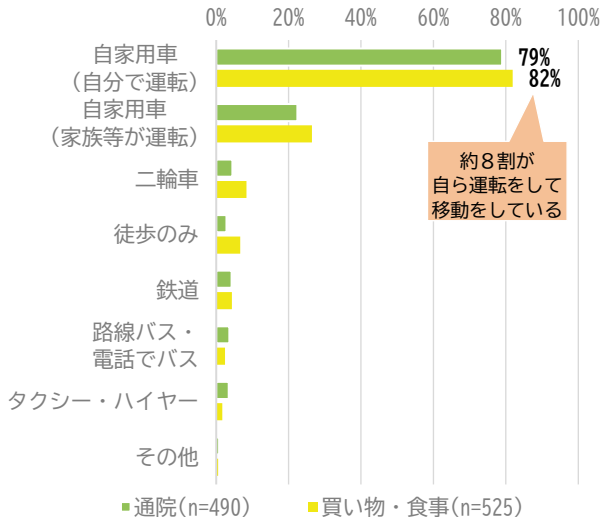
◎テーマ③：高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編

視点：高齢者

- 商業施設や医療施設への移動需要は高いものの、鉄道や路線バスの利用は進んでおらず、利便性の高いサービスが提供されていない。

● 自動車利用率の高さ

- 市民の通院、買い物・食事時の移動手段（60歳以上）

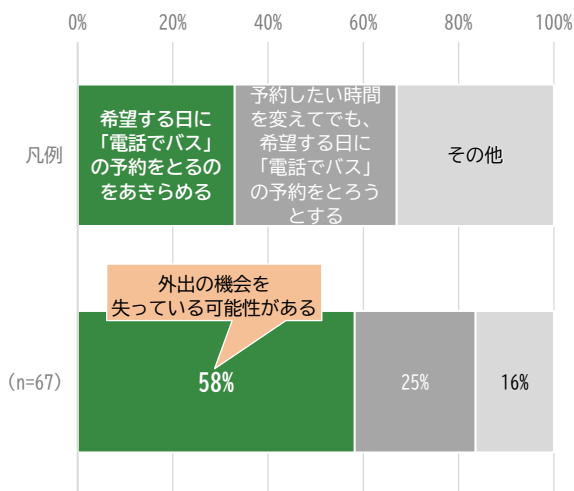


資料：一般アンケート調査結果（60歳以上）

- 笠懸町・大間々町では、「電話でバス」が運行しているが、予約が取りづらい状況が続いており、本来必要としている人が予約を取れずに諦めてしまい、結果として外出の機会を失っていると考えられる。

● 予約が取れないときに利用をあきらめる傾向

- 「電話でバス」の予約が取れないときの対応



資料：一般アンケート調査結果

- 現在、公共交通を利用していない市民であっても、免許返納後の生活に対する不安を抱えている。

● 免許返納後の不安

- 市民の声（抜粋）

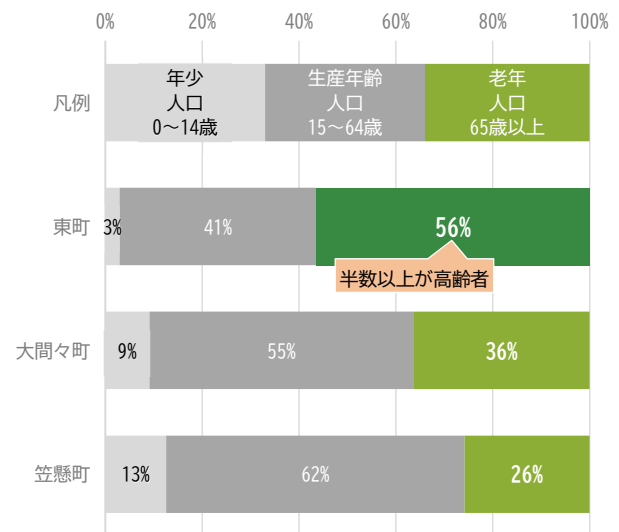
- ・ 現在は車を運転できるためバスの利用に困っていないが、将来的に免許を返納した際には、買い物・通院・駅への移動手段としてバスが使えると非常に助かると感じている。
- ・ 現在は自家用車で移動できるため不便は感じていないが、将来的に免許証を返納した場合、交通手段が限られ不便になることが予想される。
- ・ 現在は免許と車があるため不便は感じていないが、将来的に高齢になって公共交通を利用する機会が増えることを考えると、利便性の高い交通環境への期待している。
- ・ 将来的に自分も免許を返納する可能性があり、その際はバスを利用することになると思う。公共交通は多くの人利用しないと維持できないことを改めて実感した。

資料：一般アンケート調査結果（自由意見）

- 少子高齢化が特に進行している東町では、NP0による移動サービスに対するニーズが一層高まることが予想される一方で、運転手不足により持続可能な運行が困難になる懸念がある。

● 東町の高齢化率の高さ

- 地区別・年齢階層別の人口（令和6年3月時点）



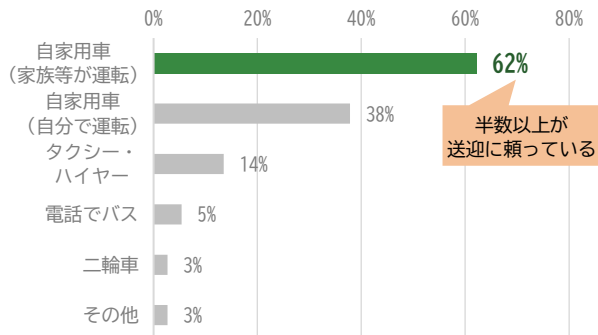
資料：みどり市

第2章 みどり市における公共交通の課題

- 駅やバス停までの徒歩移動が困難な高齢者は、自家用車に依存する傾向が強く、公共交通の利用につながっていない。

● バス停までの移動が困難

- 駅・バス停まで“ほとんど歩けない”60歳以上の移動手段（通院）



資料：市民アンケート調査結果（60歳以上）

※本調査では、路線バス利用者は0人であった

● 高齢者の声（抜粋）

- ・ 停留所へ行くまで大変。
- ・ 自宅での乗り降りが可能にならないか。
- ・ 「電話でバス」を利用してみたいが、バス停が遠すぎる。
- ・ バス停まで300m～400mも歩くのは大変。
- ・ バス停まで自宅から約1kmあり、移動が大変だと感じている。

資料：市民アンケート結果（60歳以上）

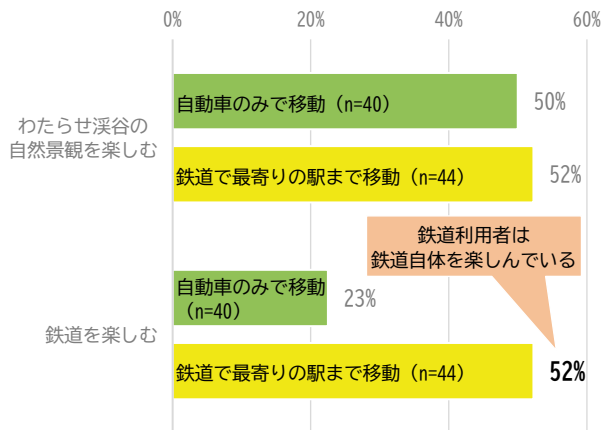
◎テーマ④：鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築

視点：観光客

- 「自然景観」「鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、遠方からの来訪者は鉄道を利用するケースが多い一方で、近距離からの来訪者は自家用車を利用する傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。

◎「自然景観」「鉄道」を目当てに訪れる

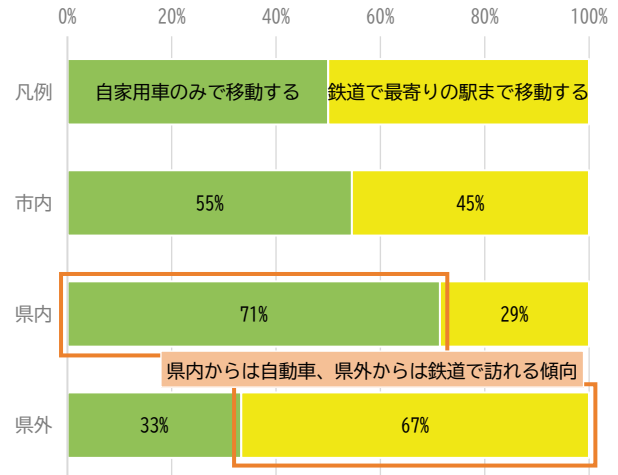
- みどり市を訪れる理由



資料：来訪者アンケート調査結果

◎遠方からは鉄道、近隣からは自動車で訪れる

- 出発地からみどり市を訪れる手段

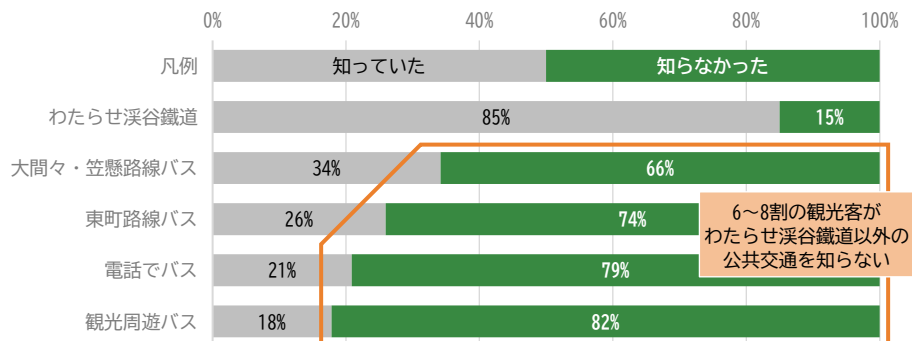


資料：来訪者アンケート調査結果

- 「自然景観・鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、みどり市の公共交通が十分に周知されておらず、みどり市の景観や鉄道のポテンシャルを最大限に活かしきれていない。

◎わたらせ渓谷鐵道以外を知らない観光客

- みどり市の公共交通を知っているか



資料：来訪者アンケート調査結果

第2章 みどり市における公共交通の課題

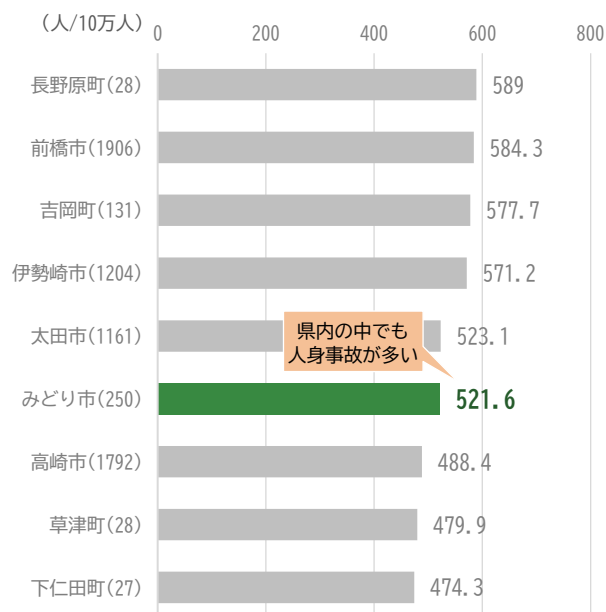
◎テーマ⑤：市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供

視点：安心・安全、魅力向上・発信・収入確保

- 人口10万人当たりの人身事故発生状況は、県内ワースト6位に位置し、近隣の伊勢崎市や太田市を含め、人身事故の発生率が高い傾向が見られる。特に、中高生の自転車事故に関しては岩宿駅周辺で発生率が高く、今後も事故が発生する可能性が懸念される

● 県内ワースト6位の事故の多さ

- 市町村別人身事故発生状況（人口10万人当たり）

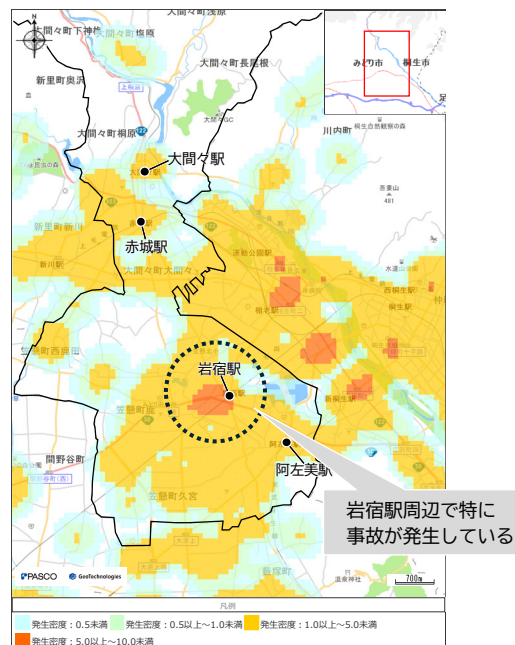


※(かっこ)内の数字は件数

資料：群馬県警察 HP（令和6年）

● 岩宿駅周辺での自転車事故の多さ

- 中高生の自転車事故の発生状況

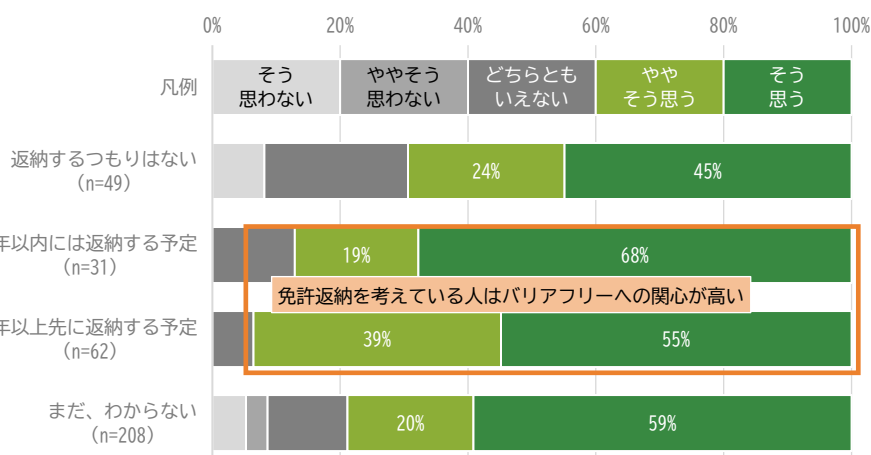


資料：マッピング群馬（一部加筆）

- 60歳以上で、今後5年以内に免許の返納を検討している方は、バリアフリー化への関心が高い傾向にあるが、現状では一部の公共交通でしかバリアフリー化に対応しておらず、利用環境の整備が十分とはいえない。

● 免許返納の予定者のバリアフリーへの関心の高さ

- 60歳以上のバリアフリーへの関心度

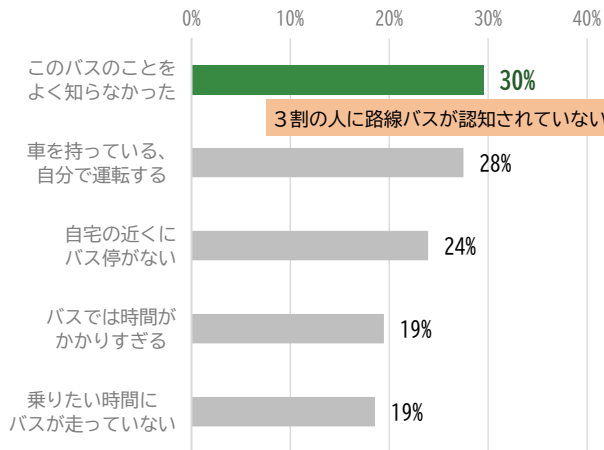


資料：一般アンケート調査結果

- 路線バスが運行されている地域であっても、情報不足や周知活動の不足により、その存在が十分に認識されず、利用意識の醸成が進んでいない。

● 路線バスを知らない市民

- 大間々・笠懸路線バスを利用できるが利用していない理由（上位5つ）



資料：市民・高校生アンケート調査結果

● 周知・PRの不足

- 市民・高校生の声

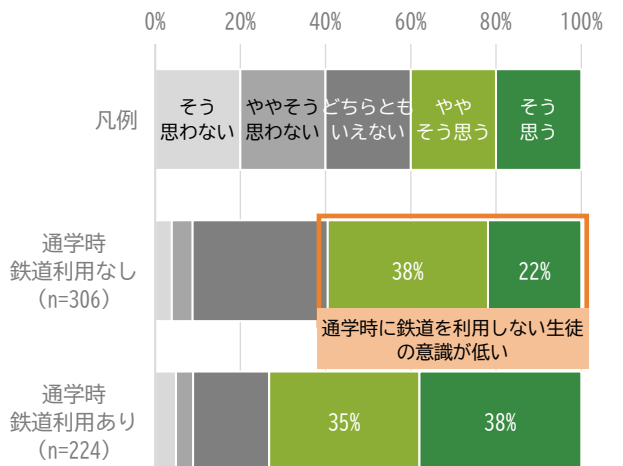
- ・ 公共交通について詳しく知らない人が多く、市としてもっと周知・PR すべきだと考える。
- ・ みどり市のバスがここまで発展していることを知らなかった。若い世代にももっと周知されるよう、SNS やアプリの活用によって変化が期待できると感じた。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

- 鉄道を利用しない高校生には鉄道の魅力が十分に伝わっておらず、今後の公共交通の利用促進を妨げる要因となっている。

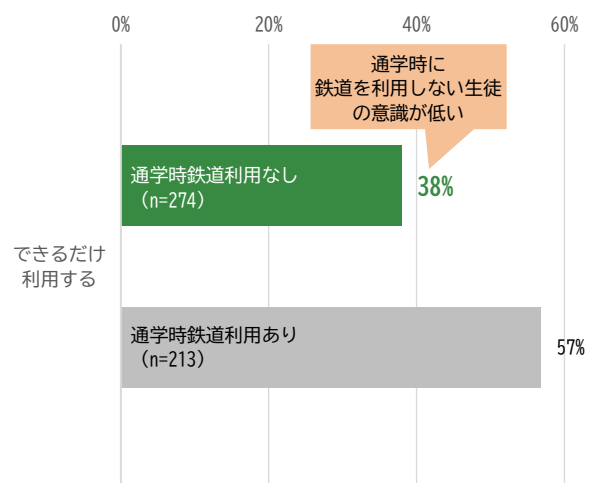
● 通学時に鉄道を利用していない生徒の公共交通への意識の低さ

- 4つの鉄道路線は、まちの発展にとって欠かせないと思うか



資料：高校生アンケート調査結果

- 公共交通の維持・発展のため、できるだけ公共交通を利用しようと思うか。



資料：高校生アンケート調査結果

第2章 みどり市における公共交通の課題

◎テーマ⑥：地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化

視点：意識醸成、連携強化

- 市民の多くが自家用車を移動手段として利用しており、それに伴い交通渋滞の増加や環境負荷の深刻化が懸念される。

● 渋滞問題に対する意識

● 市民の声（抜粋）

- ・ 岩宿駅前の道路は朝夕の交通量が多く混雑しており、駅周辺が非常に混み合っているため、道路を広げて交通をスムーズにしてほしい。

資料：市民アンケート調査結果

● 高校生の声（抜粋）

- ・ 岩宿駅前のロータリーが狭く、特に北口は利用しづらいため、朝の時間帯には交通が集中し、混雑している。

資料：高校生アンケート調査結果

● 環境問題等に対する意識

● 市民の声（抜粋）

- ・ CO₂排出量の抑制のため、公共交通の拡充が必要。
- ・ 公共交通の利便性が高まれば、高齢者が安心して免許を返納しやすくなり、交通事故の減少にもつながる可能性がある。

資料：市民アンケート調査結果

● 高校生の声（抜粋）

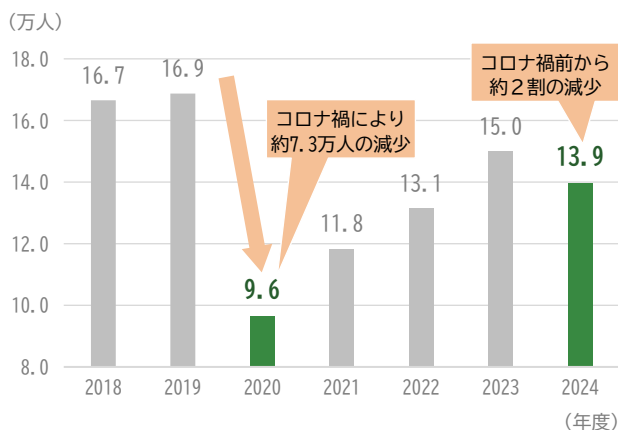
- ・ 公共交通の利便性が向上すれば、車を運転できない若者も自由に移動できるようになり、地域の活性化につながる。

資料：高校生アンケート調査結果

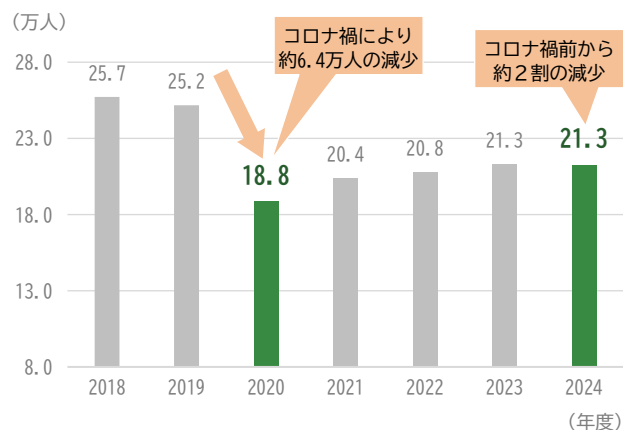
- 鉄道、路線バス、「電話でバス」、タクシーは、コロナ禍の影響で利用者が減少し、一事業者単独での取組だけでは利用者の確保が困難になっている。

● 鉄道利用者の減少

● 大間々駅（わたらせ渓谷鐵道）の利用者数



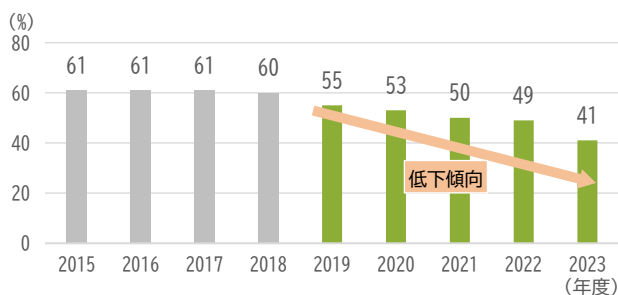
● 赤城駅（上毛電気鐵道）の利用者数



- タクシーを始めとした交通事業者の人員不足により、今後のサービス水準の低下が懸念される。

● 運転手不足による稼働率の低下

● タクシーの稼働率（実在日車/実働日車数）



● 運転手不足に対する意識

● 事業者ヒアリング結果（沼田屋タクシー(株)）

- ・ 車両はあるが、運転手の高齢化が進み、若年層の担い手が少ないため、人材確保が課題となっている。

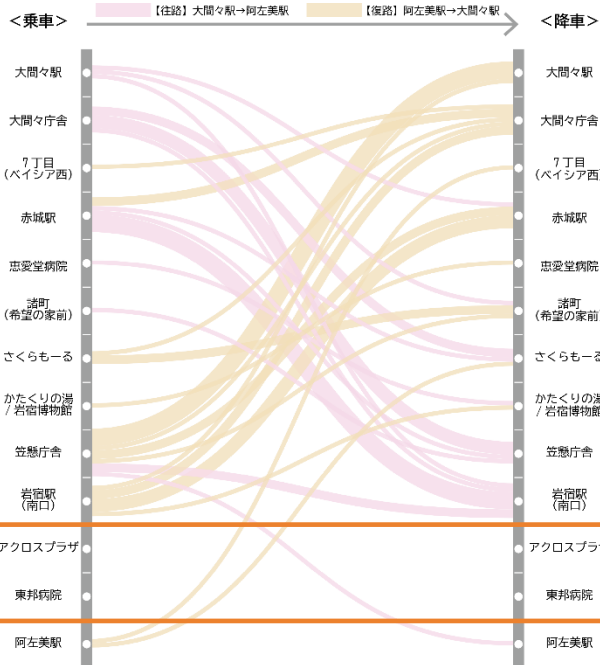
◎テーマ⑦：笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

視点：最適化、支出抑制、DX・新技術

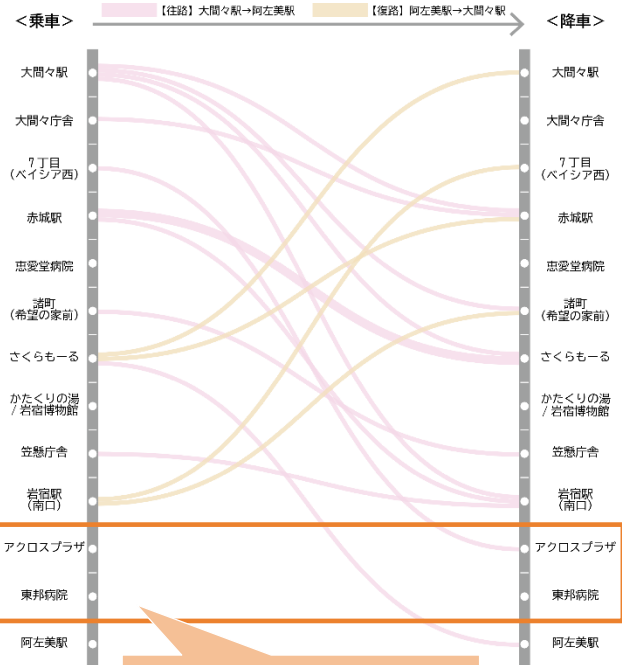
- 利用実態のない路線・バス停が存在しており、利用者のニーズに応じたサービスの提供が提供できておらず、非効率な運行となっている。

◎大間々・笠懸路線バスの利用実態のないバス停の存在

● 平日（調査日：2025年1月24日(金)）



● 休日（調査日：2025年1月26日(日)）

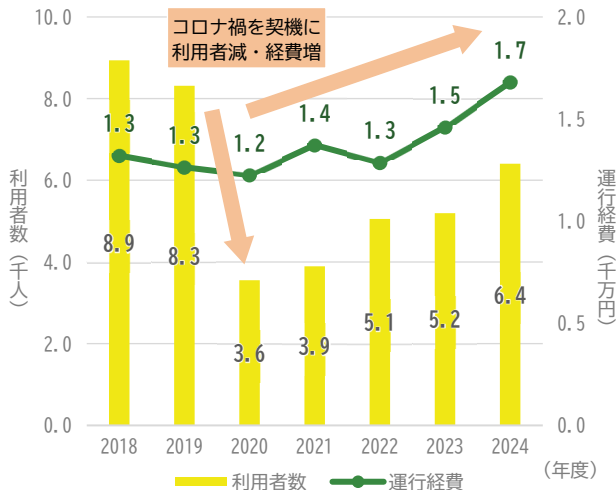


利用者のニーズと合わず利用が少ない

- 東町路線バスや「電話でバス」では、運行経費の増加や利用者が減少しており、サービス水準の低下・持続可能な運行が困難になることが懸念される。

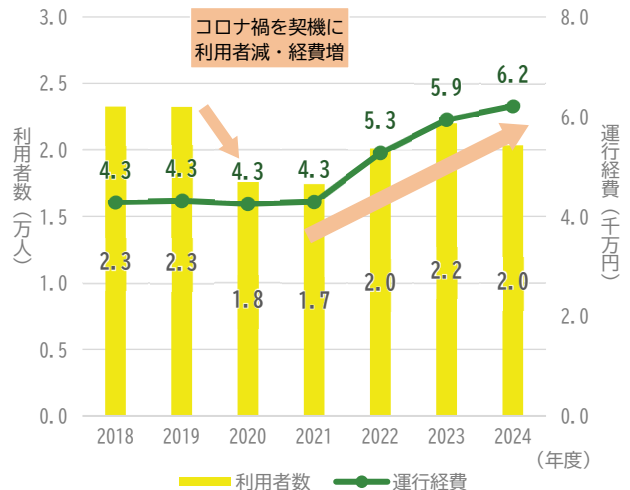
◎利用者の減少・運行経費の増加

● 東町路線バス（全路線）の利用者・運行経費



資料：みどり市

● 「電話でバス」の利用者数・運行経費



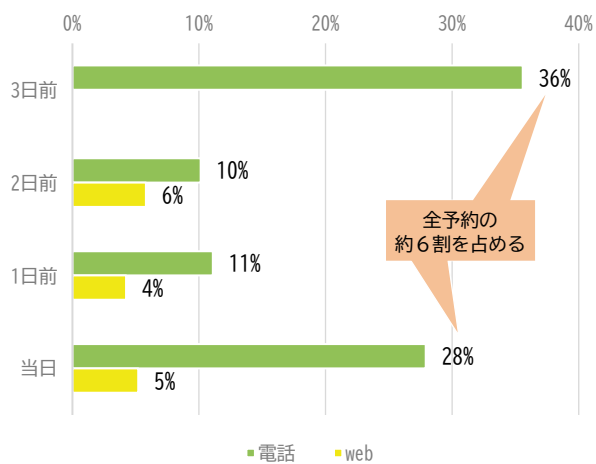
資料：みどり市

第2章 みどり市における公共交通の課題

- 笠懸町・大間々町では、「電話でバス」運行しているが、需要の高さから予約が取りづらい上に、乗り合いが進まず効率的な配車が実現できていない。

● 電話予約の多さによるオペレータへの負担増加

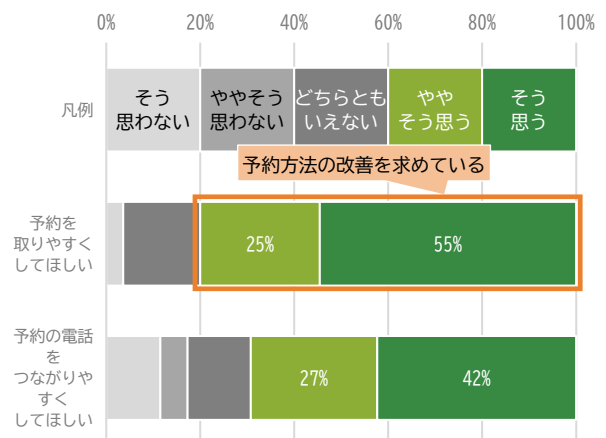
- 「電話でバス」の予約方法と予約日（R 6年度）



資料：みどり市
※web 予約は、2 日前から受付

● 予約の取りやすさを求める声

- 「電話でバス」の予約方法で改善してほしいこと



資料：市民アンケート調査結果

第3章 基本的な方針・目標、施策

3-1 基本的な方針・目標

上位計画・関連計画、本市における公共交通の課題を踏まえ、本計画で定める「基本的な方針」「目標」を以下に定めます。

また、第2次みどり市総合計画に即し、市の将来像を「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」として、定めます。

将来像

第2次みどり市総合計画と
同じ目標を共有

～輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市～

基本的な方針

地域公共交通の「あるべき姿」

輝くひと 輝くみどり 未来へつなぐ公共交通

【輝く人】 = 公共交通利用者 ⇒ 利便性を確保

【輝くみどり】 = 地域の活性化 ⇒ 持続可能性を確保

目標

地域公共交通の「あるべき姿を」
実現するために期間中に達成すべきこと

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

- ・利用者が快適に移動でき、生活の質を高めることで、地域をつなぎ暮らしを支える公共交通を目指す。

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

- ・誰でも安心して利用できる環境を整え、安心と笑顔を運ぶ公共交通を目指す。

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

- ・人々の移動を円滑にすることで、まちに活気と成長をもたらし、地域の躍動を支える公共交通を目指す。

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

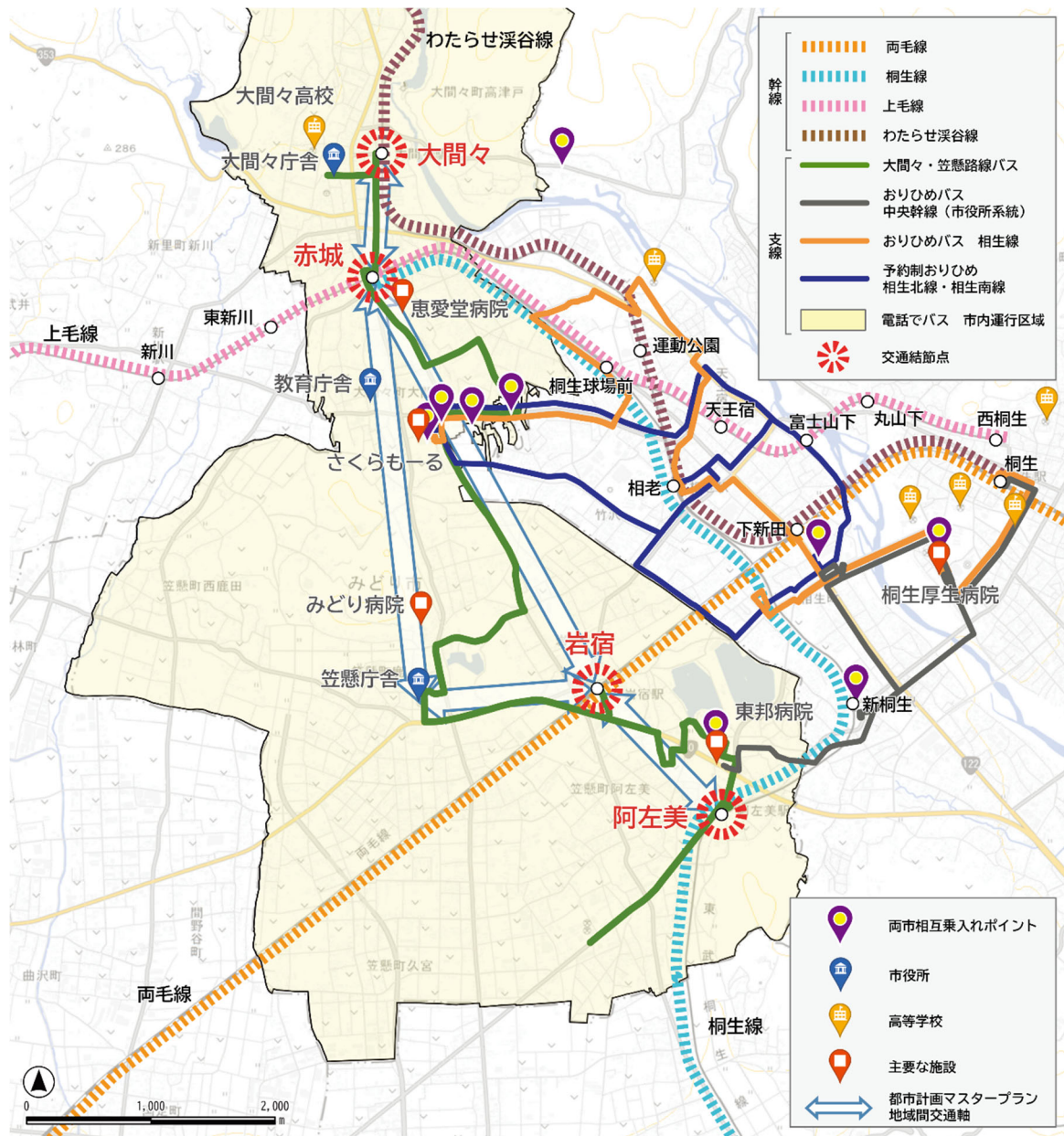
- ・地域住民や周辺自治体、交通事業者と連携し、持続可能で環境に配慮した、共に考え共に創る公共交通を目指す。

[illegible]

位置づけ	考え方
幹線交通	みどり市と地域間・都市間をつなぐ鉄道を位置づける。
支線交通	幹線を補完するみどり市内の公共交通、隣接する桐生市からみどり市へ乗入れるバスを位置づける。
補完交通	幹線交通・支線交通ではカバーできない個別移動、特定の目的のための公共交通を位置づける。
交通結節点	幹線交通・支線交通・補完交通の乗継拠点、地域・生活拠点となる鉄道駅を位置づける。

第3章 基本的な方針・目標、施策

● 南部地域（笠懸町・大間々町）の公共交通ネットワーク



位置づけ	No	交通サービス	交通事業者
幹線交通	1	両毛線	東日本旅客鉄道(株)
	2	桐生線	東武鉄道(株)
	3	上毛線	上毛電気鉄道(株)
	4	わたらせ渓谷線	わたらせ渓谷鐵道(株)
支線交通	5	大間々・笠懸路線バス【法第4条許可】 【補助対象フィーダー系統】	みどり市（委託：赤城観光自動車(株)）
	6	電話でバス【法第4条許可】 【補助対象フィーダー系統】	みどり市（委託：赤城観光自動車(株)）
	7	おりひめバス（中央幹線 市役所系統、相生線） 予約制おりひめ（相生北・相生南線）	桐生市（委託）
補完交通	8	タクシー	(株)沼田屋タクシー、桐生合同自動車(株)、桐生朝日自動車(株)
	9	福祉有償運送	福祉有償運送事業者
	10	小中学校スクールバス	みどり市（委託）
	11	桐生大学スクールバス	桐生大学（委託）
	12	ボートレース桐生無料巡回バス	(株)ボートネットワーク（委託）
補完交通 (環境に配慮)	13	高速バス（桐生駅南口発）	東京空港交通(株)、日本中央バス(株)
	14	観光周遊バス（eCOM-8）	みどり市観光協会
交通 結節点	15	レンタサイクル	みどり市（委託）、上毛電気鉄道(株)
	16	岩宿駅、阿左美駅、赤城駅、大間々駅	東日本旅客鉄道(株)、東武鉄道(株)、上毛電気鉄道(株)、わたらせ渓谷鐵道(株)

● 南部地域（笠懸町・大間々町）の位置づけ・役割

位置づけ	No	主な役割	確保・維持策
幹線交通	1	岩宿駅から桐生市・伊勢崎市・前橋市・高崎市への地域間の移動を担う。 JR 高崎線・北陸新幹線及び JR 宇都宮線・東北新幹線に接続し、都市間の移動を担う。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。 地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する。※1 沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。※1 沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する。※2
	2	赤城駅・阿左美駅から太田市・館林市への地域間の移動を担う。 伊勢崎線及び小泉線に接続し、都市間の移動を担う。	
	3	赤城駅から前橋市・桐生市への移動を担う。 通勤・通学をメインとした地域間の移動を担う。	
	4	大間々駅から東町・桐生市への地域間の移動を担う。 間藤駅からは日光市に接続し、都市間の移動を担う。	
支線交通	5	大間々駅・赤城駅・岩宿駅・阿左美駅を接続し、地域内の移動を担う。	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続的な運行を目指す。 桐生市地域公共交通計画に基づき、持続的な運行・交通事業者と協議のうえ、一定上の運行水準を確保する。
	6	大間々・笠懸エリア内の地域内の移動を担う。 一部で、桐生市と地域間の移動を担う。	
	7	みどり市・桐生市間の地域間の移動を担う。	
補完交通	8	ドアツードアの移動を担う。 地域内・地域間の移動を担う。	利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	9	障がい者等の個別の移動を担う。	
	10	統廃合した小中学校の学区の児童・生徒の登下校を担う。	
	11	桐生第一高校・桐生大学を結び、桐生駅・阿左美駅を経由し学生の登下校を担う。	
	12	岩宿駅・阿左美駅からポートレース桐生、ポートレース桐生・みどモストリートパークまでの移動を担う。	
	13	桐生駅(南口)から羽田空港までの空港アクセス、名古屋・大阪・仙台までの東西の都市間アクセスなど、長距離の移動を担う。	
補完交通 (環境に配慮)	14	観光地までの移動、観光地の PR を目的とした運行を担う。	
	15	まちなかの周遊、観光地までの移動を担う。	
交通 結節点	16	幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点を担う。	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ、※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ
あり方に関する基本方針」より）

（沿線地域交通リ・デザイン推進協議会「今後の

第3章 基本的な方針・目標、施策

◎ 北部地域（東町）の公共交通ネットワーク



位置づけ	No	交通サービス	交通事業者
幹線交通	1	わたらせ渓谷線	わたらせ渓谷鐵道(株)
支線交通	2	東町路線バス（美術館線）[法第4条許可] 【補助対象フィーダー系統】	みどり市（委託：赤城観光自動車(株)）
	3	東町路線バス（沢入線・小中線・花輪線）	みどり市（委託：赤城観光自動車(株)）
補完交通	4	交通空白地有償運送	特定非営利活動法人グループ28
	5	タクシー	(株)沼田屋タクシー、桐生合同自動車(株)、 桐生朝日自動車(株)
	6	福祉有償運送	福祉有償運送事業者
	7	小中学校スクールバス	みどり市（委託）
補完交通 (環境に配慮)	8	観光周遊バス（eCOM-8）	みどり市観光協会
交通 結節点	9	花輪駅、神戸駅、沢入駅	わたらせ渓谷鐵道(株)

◎ 北部地域（東町）の位置づけ・役割

位置づけ	No	主な役割	確保・維持策
幹線交通	1	花輪駅・中野駅・小中駅・神戸駅・沢入駅から笠懸町・大間々町・桐生市への地域間の移動を担う。沢入駅からは日光市の間藤駅に接続し、都市間の移動を担う。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。 地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する。※1 沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。※1 沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2
支線交通	2	神戸駅から富弘美術館までを接続し、わたらせ渓谷線から主に観光客の移動を担う。	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。 利用ニーズに応じた運行水準を確保する。 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。
	3	神戸駅・沢入駅・花輪駅を接続し、地域内の移動を担う。	
補完交通	4	日常生活の移動に困っている人の移動を担う。東エリアを発着地とする、買い物や通院など日常生活に必要な移動を担う	引き続き運行に関わる支援を実施し、持続可能な運行を目指す。 利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	5	ドアツードアの移動を担う。 地域内・地域間の移動を担う。	
	6	障がい者・高齢者等の個別の移動を担う。	
	7	あずま小中学校に通学する児童・生徒の登下校を担う。	
補完交通 （環境に配慮）	8	観光地までの移動、観光地のPRを目的とした運行を担う。	
交通 結節点	9	幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点を担う。	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ
※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ
（沿線地域交通・デザイン推進協議会「今後のあり方に関する基本方針」より）

（沿線地域交通・デザイン推進協議会「今後の

第3章 基本的な方針・目標、施策

② 地域公共交通確保維持改善事業の必要性

大間々・笠懸路線バス、東町路線バス（美術館線）、「電話でバス」の各系統は、鉄道など他の交通手段と連絡し、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っています。

一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により、運行を確保・維持する必要があります。

以下の通り、国庫補助金である国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業導入の必要性について整理します。

● 大間々・笠懸路線バス

「大間々・笠懸路線バス」は、みどり市都市計画マスタープランで「地域拠点」として位置づける「笠懸地域拠点（岩宿駅・阿左美駅周辺）」と「大間々地域拠点（赤城駅・大間々駅周辺）」を南北方向につなぐ路線として、通学をはじめ、買物・通院など日常生活の移動を担っています。また、隣接する桐生市が運行する「おりひめバス」と相互乗り換えが可能であり、両市間での移動を担っています。

本市の特徴である鉄道4路線の主要駅を接続し、本市の公共交通ネットワークを構築するうえで重要な役割を担っています。

● 東町路線バス（美術館線）

「東町路線バス（美術館線）」は、わたらせ渓谷鐵道「神戸駅」を起点として、みどり市都市計画マスタープランで「観光・レクリエーション拠点」として位置づける市の主要観光施設である「富弘美術館」や現在リニューアルオープンに向け整備を進める「サンレイク草木」をつなぐ路線として、主に観光客を中心とした移動を担っています。

わたらせ渓谷鐵道とともに本市の観光振興にとって重要な路線として重要な役割を担っています。

● 電話でバス

「電話でバス」は、大間々町、笠懸町でデマンド運行を実施し、主に高齢者の買物・通院などの日常生活に欠かせない移動手段を担っています。また、隣接する桐生市が運行する「おりひめバス」と相互乗り換えが可能であり、両市間での移動を担っています。

「大間々・笠懸路線バス」とともに、自動車がなくても移動ができる環境を整備するうえで、重要な役割を担っています。

第3章 基本的な方針・目標、施策

こんな使い方ができます！



みどり市では、市内全域において鉄道や路線バスなどの公共交通で移動可能なルートが整備されています。通勤・通学をはじめ、買い物や通院など、日常生活のさまざまな場面や観光で利用できる交通ネットワークとなっています。

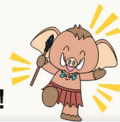
通勤

全域

市民の10人に8人が車通勤
渋滞疲れになっていませんか？



渋滞疲れから解放！
毎日の移動がちょっと贅沢に！



通学（高校生・大学生等）

全域

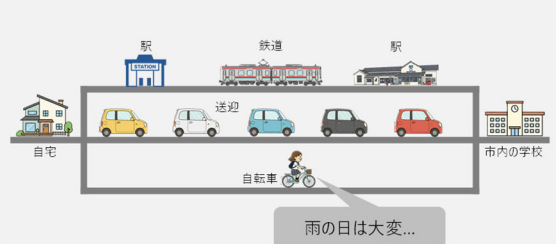
学校まで行くの大変だな。
もっとラクに通学したいな...



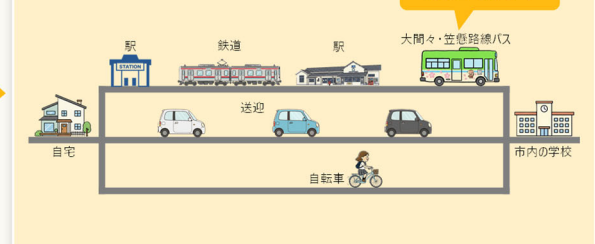
通学時間をちょっと楽しく、ちょっと楽に！
公共交通で学校生活がもっと充実するかも？



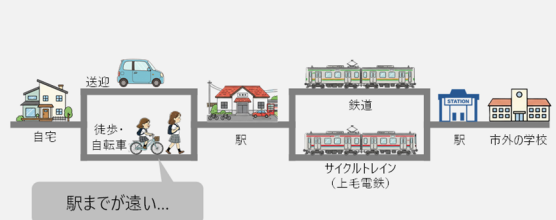
【市外在住→市内の学校】



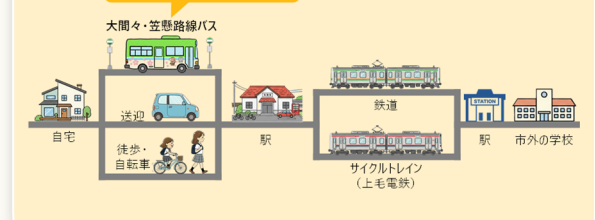
雨の日も安心！



【市内在住→市外の学校】



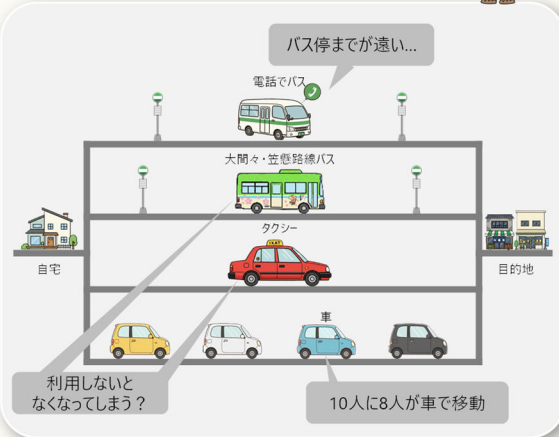
駅まで安全に行ける！



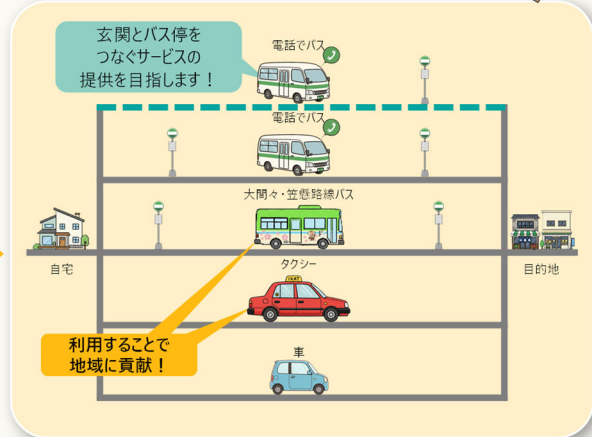
買い物・通院など

大間々・笠懸エリア

車以外の選択肢、知っていますか？
知っているけど、バス停まで歩けない...

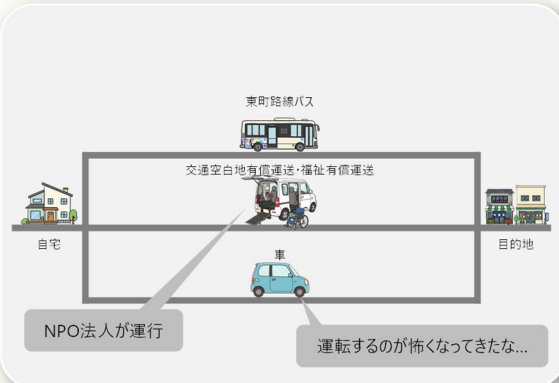


移動しながら誰もが地域貢献できる！
お出かけの機会を増やします！



東町エリア

東町では、10人に4人が高齢者
いつまで運転しますか？



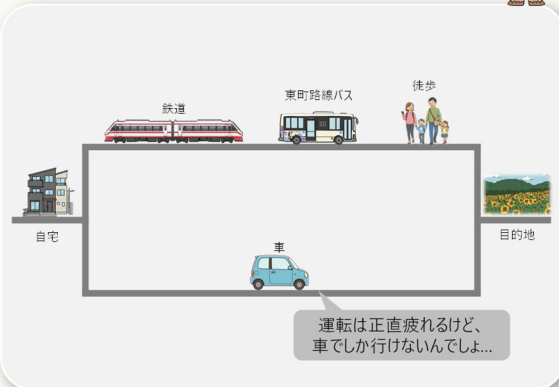
わ鐵も使えます！
いつもと違うお出かけを！



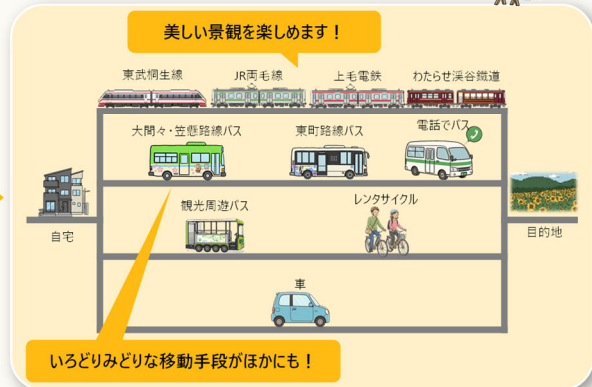
観光

全域

長時間の運転は疲れるな...
でも、みどり市まで車でしか行けないでしょ？



4 つも鉄道があります！
移動自体を楽しみませんか？



第3章 基本的な方針・目標、施策

3-3 目標達成のための施策・事業

(1) 施策・事業体系

「基本的な方針」を踏まえ、「目標」を達成するための施策を以下に示します。

◎ 目標・施策・事業と課題（テーマ）の関係

◎ テーマに直接的に関係する事業
○ テーマに間接的に関係する事業

対応する課題（テーマ）						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
市民	高校生	高齢者	観光客	安心・安全 魅力向上・ 発信 収入確保	意識醸成 連携強化	最適化 支出抑制 DX・新技術
多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築	市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保	高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編	鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築	市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供	一体となった連携体制の強化	笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの地域構築

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

①-1 公共交通ネットワークの改善・強化

①-1-1 4 鉄道の維持・連携強化	◎			○	○	○	
①-1-2 大間々・笠懸路線バスの改善・見直し		◎			○	○	○
①-1-3 東町路線バスの改善・見直し				◎	○		○
①-1-4 「電話でバス」の改善・見直し	◎		◎		○	○	○
①-1-5 バス車両の更新	○	○	○	○			◎
①-1-6 駅機能の整備	○	○	○	○	◎	○	○
①-1-7 日本版ライドシェアの導入	◎					○	○
①-1-8 レンタサイクルの充実	○			◎	◎	○	
①-1-9 補助制度の活用	◎	◎	◎	◎			

①-2 交通DX・GXの推進

①-2-1 AIオンデマンド交通システムの効果検証	◎		◎		○		◎
①-2-2 運賃のキャッシュレス化の導入	○			○	◎		○
①-2-3 バスロケーションシステムの導入	○			○	◎		○
①-2-4 グリーンスローモビリティの運行	○			◎	◎		○
①-2-5 デジタルサイネージの設置	○			○	◎		○
①-2-6 MaaSシステムの導入	○			○	◎	◎	◎

①-3 利用したくなる仕組みづくり

①-3-1 公共交通イベントの開催					◎	○	
①-3-2 バス停の案内看板デザインの変更					◎		
①-3-3 運賃補助制度の拡充	○	○	○		◎		
①-3-4 広報戦略の改善					◎	◎	

第3章 基本的な方針・目標、施策

対応する課題（テーマ）							
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
市民	高校生	高齢者	観光客	安心・安全 魅力向上・ 発信 収入確保	意識醸成 連携強化	最適化 支出抑制 DX・新技術	
多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築	市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保	高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編	鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築	市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供	一体となった連携体制の強化	笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築	
<div> <div>◎ テーマに直接的に関係する事業</div> <div>○ テーマに間接的に関係する事業</div> </div>							
② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通							
②-1 バリアフリー化の推進							
②-1-1 バリアフリー車両の導入	○	○	○	○	◎		
②-1-2 駅機能の整備【①-1-6 再掲】	○	○	○	○	◎	○	○
②-2 快適性の向上							
②-2-1 公共交通オープンデータの整備・活用					◎		○
②-2-2 出前講座等の開催							◎
②-2-3 駅機能の整備【①-1-6 再掲】	○	○	○	○	◎	○	○
②-2-4 AIオンデマンド交通システムの効果検証【①-2-1 再掲】	◎		◎		○		◎
②-2-5 運賃のキャッシュレス化の導入【①-2-2 再掲】	○			○	◎		○
②-2-6 パスロケーションシステムの導入【①-2-3 再掲】	○			○	◎		○
②-2-7 デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】	○			○	◎		○
②-2-8 MaaSシステムの導入【①-2-6 再掲】	○			○	◎	◎	◎
③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通							
③-1 まちづくりと連携した交通施策の推進							
③-1-1 立地適正化計画との連携	○					◎	○
③-1-2 観光施策との連携				◎		◎	
③-2 移動自体を楽しむ仕組みづくり							
③-2-1 景観を活かした運行	○			◎	◎		
③-2-2 新たな移動サービスの調査・検討	○			○	◎		◎
③-2-3 グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】	○			◎	◎		○
④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通							
④-1 県・周辺自治体・市民と連携した交通施策の推進							
④-1-1 群馬県との連携強化						◎	○
④-1-2 桐生市との連携強化	○					◎	
④-1-3 市民団体等による環境整備・情報発信					◎	◎	
④-1-4 日本版ライドシェアの導入【①-1-7 再掲】	◎					○	○
④-2 地域企業との連携							
④-2-1 地元企業産のグッズの販売					○	◎	
④-2-2 広告協賛事業の導入					◎		
④-2-3 商業施設・医療施設との連携					○	◎	
④-3 公共交通の実態の周知							
④-3-1 公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施					◎		◎
④-3-2 公共交通イベントの開催【①-3-1 再掲】					◎	○	
④-3-3 広報戦略の改善【①-3-4 再掲】					◎	○	
④-3-4 出前講座等の開催【②-2-2 再掲】							◎

(2) 事業内容

施策体系を踏まえ、以下の内容で事業内容を整理します。

● 施策・取組の内容表の見方

目標番号	目標名						
施策番号	施策名						
背景 目的	● 施策の背景と目的を示します。						
事業番号	事業名						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎ テーマ直接的に関係する事業、○ テーマに間接的に関係する事業						
事業内容	(1) 事業の内容を示します。						
エリア 路線等	● 事業の対象となるエリアや路線等を示します。						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【実施主体を示します】 ↓実施のスケジュールを示します						

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通						
①-1	公共交通ネットワークの改善・強化						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果では、市民の移動の8割程度が自動車での移動であり、公共交通が利用されていない。 各公共交通の収支率は、年々悪化し個々の公共交通だけでの取り組みでは、持続可能な公共交通が維持できない状況となっている。 市民の公共交通利用での「おでかけ」を実現し、みどり市を訪れる観光客が快適に移動できるよう、既存の公共交通の改善・強化し、持続可能な公共交通を実現することを目的とする。 既存の公共交通の無駄を省き、効率的な運行と適切な予算配分を実現することを目的とする。 						
①-1-1	4鉄道の維持・連携強化						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎			○	○	○	
事業内容	<p>(1) 「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」は、「沿線地域交通リ・デザイン協議会」において今後の鉄道のあり方を検討し、維持・連携強化を図るため、「地域公共交通計画」の策定をする。</p> <p>(2) 既存のパークアンドライド駐車場の利用促進、サイクルトレインのさらなる周知による自転車の利用促進や観光振興により鉄道利用者の増加を図る。</p> <p>(3) 「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」は、「再生協議会等」において、計画的な車両更新・設備更新及び運行支援について検討を行う。</p> <p>(4) 4鉄道が連携したイベントや運賃サービスを実施することで、みどり市だけでなく周辺地域の活性化に寄与する取組を実施する。</p> <p>→事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント</p> <p>→事例：東武鉄道による、「ふらっと両毛 東武フリーパス」</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> JR 両毛線、東武桐生線、上毛線、わたらせ渓谷線 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【鉄道事業者、群馬県、みどり市】リ・デザイン推進協議会による協議					
		【鉄道事業者・群馬県・みどり市】地域公共交通計画の策定（予定）					
	(2)	【鉄道事業者】パークアンドライド・サイクルトレインの強化					
	(3)	【鉄道事業者、群馬県、みどり市】再生協議会での更新を検討					
	(4)	【鉄道事業者】4鉄道が連携した取組の継続					

第3章 基本的な方針・目標、施策

①-1-2	大間々・笠懸路線バスの改善・見直し						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		◎			○	○	○
事業内容	(1) 鉄道（大間々駅、赤城駅、岩宿駅、阿左美駅）との接続を考慮したダイヤの調整を図る。 (2) 大間々高校生や市外へ通学する高校生が通学時間帯に利用できるよう、ダイヤの調整を図る。 (3) 高校生の多い笠懸南部に路線バスの運行を検討する。 (4) みどり市内の通院先である「恵愛堂病院」「東邦病院」、利用者の少ない「アクロスプラザ」のバス停については、利用者の動向に合わせたダイヤの調整を図る。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【委託業者、みどり市】ダイヤの調整・随時見直し				
	(2)						
	(3)		【委託業者、みどり市】導入の検討				
	(4)		【委託業者、みどり市】ダイヤの調整・随時見直し				

①-1-3	東町路線バスの改善・見直し						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
				◎	○		○
事業内容	(1) 現行路線における利用実態や今後の沿線の取組を踏まえ、想定されるニーズに対応できる路線への見直しを検討する。 (2) 主に観光客に利用され、「富弘美術館」「サンレイク草木」への需要があり、10月から11月にかけて利用者が増加するため、利用動向に合わせて増便などの対応の検討を行う。						
エリア 路線等	● 東町路線バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【委託業者、みどり市】利用実態等を踏まえた路線の見直しの検討・実施				
	(2)		【委託業者、みどり市】美術館線の増便対応の検討・実施				

①-1-4	「電話でバス」の改善・見直し						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎		◎		○	○	○
事業内容	(1) 住民の高齢化や「バス停まで遠い」といった実態に対応するため、玄関先まで迎えに行く仕組みも含め、運行体制を見直す。併せて、予約が取りにくい状況を改善し、効率的で利用しやすいデマンドバスを目指す。						
エリア 路線等	● 「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託事業者、みどり市】運行体制の見直し					→


①-1-5	バス車両の更新						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎	○	○
事業内容	(1) みどり市が運行する路線バス・「電話でバス」の持続的な運行のため、計画的な車両更新を行う。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市】バス車両の計画的な更新					→

①-1-6	駅機能の整備						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎	○	○
事業内容	(1) 「岩宿駅を核とした総合的なまちづくりプラン」に基づき、岩宿駅周辺の整備を実施し、利用者の利便性と快適性の向上を図る。 (2) その他の駅についても、まちづくりや利用者動向に応じて、バスやタクシーなどの結節機能としての整備を検討する。						
エリア 路線等	● 岩宿駅、その他市内の駅						
実施主体	● みどり市、交通事業者						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市】 用地交渉、駅舎機能やコストの比較検討、検討結果を踏まえた事業推進（設計等）					→
(2)		【みどり市】まちづくり・利用者動向に応じて検討・実施					→

第3章 基本的な方針・目標、施策

①-1-7	日本版ライドシェアの導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎					○	○
事業内容	(1) タクシー事業者の運転手不足への対応及び桐生市との生活圏との一体化を目的として、タクシー事業者・桐生市と連携し、「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」の導入を検討する。 →桐生市では、タクシー運転手不足への対応として、タクシーの空き車両を活用した「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」令和6年11月29日より開始し、市民の移動手段を確保している。						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【タクシー事業者、桐生市】桐生市での日本版ライドシェアの運行 →					
		【タクシー事業者、桐生市、みどり市】みどり市内での検討・実施 →					

①-1-8	レンタサイクルの充実						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎	○	
事業内容	(1) さらなる周知・PRを進め、利便性向上を図るため、設置場所の増設や車両の増車など、利用状況に応じて検討する。 →市内5か所（みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅）に無料のレンタサイクルを設置し、主に観光客の移動手段として活用されている。						
エリア 路線等	● みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅 ● その他主要な施設						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】レンタサイクルの継続 →					
		【上毛電気鉄道、みどり市観光協会、民間事業者、みどり市】設置場所の増設、車両の増車に向けた検討・導入 →					

①-1-9	補助制度の活用						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎	◎	◎	◎			
事業内容	<p>(1) 持続可能な運行体制を構築するため、群馬県市町村乗合バス補助金、地域公共交通確保維持改善事業（国費）を活用し、維持・改善に取り組む。</p> <p>→大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」は、市民・観光客の移動手段として必要不可欠である。しかし、本市や事業者の運営努力だけでは、路線の維持が困難となっている。</p>						
エリア 路線等	<p>● 大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」</p>						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	<p>【みどり市】補助制度の活用の検討・実施</p> 					

第3章 基本的な方針・目標、施策


①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通						
①-2	交通 DX・GX の推進						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none">「みどり市デジタル化推進計画」「みどり市 SDGs 未来都市計画」に基づき、DX・GX を推進しており、持続可能なまちづくりが求められている。デジタル技術を活用した事業改革と環境に配慮した運行を推進し、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。						
①-2-1	AI オンデマンド交通システムの効果検証						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎		◎		○		◎
事業内容	(1) 予約に応じた最適ルートの自動運行とスマートフォンアプリの活用により、「予約が取りにくい」問題の解消や利便性の向上を図る。 →利用者アンケートやヒアリングを通じて効果を検証し、より高い利便性と効率的な運行を目指す。						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">南部地域（大間々・笠懸エリア）「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【委託事業者、みどり市】効果検証結果により随時見直し				
①-2-2	運賃のキャッシュレス化の導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		○
事業内容	(1) 導入によって利便性が向上し、乗降時の時間短縮に寄与する。また、現金管理の手間が削減され、運営コストの抑制にもつながるため、今後の利用者動向に応じて段階的な導入を検討する。 →令和6年6月に大間々・笠懸路線バスに電子決済端末を導入したが、電子決済端末の利用率は0.5%から4%で推移している。						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【委託事業者、みどり市】利用者動向に応じて導入検討				



①-2-3	バスロケーションシステムの導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		○
事業内容	(1) バスの乗り遅れなどを防ぐため、スマートフォン等でバスの現在地を確認できるバスロケーションシステムの導入を検討する。						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)		【委託事業者、みどり市】導入に向けた検討				

①-2-4	グリーンスローモビリティの運行						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎		○
事業内容	(1) みどり市観光協会が所有するグリーンスローモビリティを活用し、既存イベントでの運行に加え、ゆったりとしたスピードとコンパクトな車両という特徴を活かし、まちなか周遊ルートの開拓を検討する。						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)		【みどり市観光協会、みどり市】連携した運行の実施				

①-2-5	デジタルサイネージの設置						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎		○
事業内容	(1) 市内の主要駅やバス停留所、商業施設、医療施設などにデジタルサイネージを設置し、利便性の向上と情報発信の強化を図る。リアルタイムの運行情報や遅延通知を提供し、乗客の移動をよりスムーズにするとともに、公共交通の利用メリットを最大化する。 →設置にあたっては、多言語対応による訪日外国人向けの案内強化や、視認性の高い情報デザインを採用し、より多様な利用者が快適に移動できる環境を実現する。						
エリア 路線等	● 主要な駅・バス停 ● 商業施設・医療施設						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)		【民間事業者、交通事業者・みどり市】 関係者・施設管理者との協議の上、設置検討・実施				

第3章 基本的な方針・目標、施策

①-2-6	MaaS システムの導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎	◎	○
事業内容	<p>(1) 群馬県で運営している「GunMaaS」やみどり市独自の「行政 MaaS※」の導入を検討する。</p> <p>→MaaS (Mobility as a Service) システムの導入により、市民や観光客の移動ニーズに対応し、複数の公共交通や移動サービスを最適に組み合わせた検索・予約・決済を一括で行うことが可能となる。さらに、観光や医療など交通以外の分野との連携を強化することで、移動の利便性向上だけではなく、地域の活性化にも貢献する。</p> <p>→※行政 MaaS：庁舎とオンラインで接続されたマルチタスク車両を活用し、行政職員が現地へ移動することなく、各種申請や相談に対応できる移動型行政サービス。住民がアクセスしやすい場所で行政サービスを受けられる。</p>						
エリア 路線等	● 市内全域						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	<p>【交通事業者、委託事業者、みどり市】 みどり市に合ったシステムの検討・導入</p> 					

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通						
①-3	利用したくなる仕組みづくり						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスを利用しない理由として、運行エリアの住民であっても「バスの存在を知らない」や「自家用車を運転するため利用しない」といった要因がある。そのため、情報の周知や公共交通の魅力を発信することが求められている。 特に通学時に鉄道を利用しない高校生は、公共交通に対する関心が低い傾向があり、幼少期から公共交通への関心を育むことが求められている。 公共交通の利便性向上だけでなく、移動の快適性と情報提供の質を向上させ、魅力を発信することで、利用の「きっかけ」を創出し、さらなる利用促進を図ることを目的とする。 						
①-3-1	公共交通イベントの開催						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	○	
事業内容	<p>(1) 公共交通の魅力を広く伝え、利用促進と認知度向上を図るため、交通機関を活用した体験型イベントや地域住民・観光客向けの公共交通イベント、環境施策と連携したイベントの実施を検討する。</p> <p>→公共交通の利用方法を分かりやすく伝えることで、誰もが安心して公共交通を利用できる環境を整え、利用促進を図る。</p> <p>→事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント</p> <p>→事例：上毛電気鉄道(株)による、「デハ101」車両の貸切運転</p> <p>→事例：上毛電鉄友の会による、「スタンプラリー」イベント</p> <p>● ぐんまローカルスタンプラリー</p>  <p>出典：JR 東日本 HP</p> <p>● 上毛電鉄友の会企画のスタンプラリー</p>  <p>出典：上毛電鉄友の会 HP</p>						
エリア・ 路線等	<ul style="list-style-type: none"> 各公共交通 各駅 						
スケジュール	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
実施主体	<p>【鉄道事業者、関係団体】鉄道各社によるイベントの実施継続</p> <p>(1) 【交通事業者、観光協会、みどり市】みどり市が主体となったイベントの検討・実施</p>						

第3章 基本的な方針・目標、施策

①-3-2	バス停の案内看板デザインの変更						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		
事業内容	<p>(1) バス停における待ち時間が「楽しい」と感じられるよう、待合環境の改善を含むバス停デザインの変更を行う。</p> <p>→バス停の案内看板のデザインを刷新することで、利用者の利便性向上と公共交通の魅力向上を図る。視認性の高いデザインの採用や、多言語対応による情報提供の強化を進めることで、誰もが快適に公共交通を利用できる環境を整える。</p> <p>→みどり市の特色を活かしたデザイン要素を取り入れることで、公共交通と地域の魅力を一体的に発信し、まちづくりの観点からも貢献する。</p>						
エリア 路線等	● 大間々・笠懸路線バス						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託事業者、みどり市】デザインの検討・実施					→

①-3-3	運賃補助制度の拡充						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○		◎		
事業内容	<p>(1) 高齢者、障がい者、学生、子育て世帯、観光客など、移動の支援が求められる層に対して補助を行い、公共交通の利用促進と移動負担軽減を図る。</p> <p>→移動の利便性を向上させるだけでなく、地域経済の活性化や公共交通の持続可能性確保にも寄与する。</p>						
エリア 路線等	● 各鉄道、大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
実施主体	● みどり市						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市】高校生・高齢者等への運賃補助の継続					→
		【みどり市】他の利用者に対する補助の検討・導入					→

①-3-4	広報戦略の改善						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	◎	
事業内容	<p>(1) 各公共交通が連携し、一元化された情報提供の仕組みを検討する。 →SNS や公式アプリを通じたリアルタイム情報提供、地域イベントとの連携、視認性の高い広告展開などを進めることで、公共交通の魅力を効果的に伝え、利用促進につなげる。また、多言語対応やアクセシビリティ向上にも重点を置き、より多様な利用者に向けた情報発信の強化を推進する。</p>						
エリア 路線等	<p>● 各公共交通</p>						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	<p>【交通事業者、観光協会、みどり市】各公共交通事業者による運営継続</p> <p>→</p>					
		<p>【交通事業者、観光協会、みどり市】統一された情報提供の検討・導入</p> <p>→</p>					

第3章 基本的な方針・目標、施策

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通						
②-1	バリアフリー化の推進						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none">60 歳以上で、5 年以内に免許返納を検討している人は、バリアフリー化への関心が高い傾向があるが、路線バスをはじめ、十分なバリアフリー対応が進んでいないため、さらなる整備を進め、交通の障壁をなくすことが求められている。バリアフリー対応の車両更新だけでなく、玄関先まで迎えに行く交通の検討、駅舎のバリアフリー化などの交通結節点整備を進める。						
②-1-1	バリアフリー車両の導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		
事業内容	(1) 様々な条件の方が快適に公共交通を利用できる環境を整えるため、車両更新の際はバリアフリー対応の車両を導入する。 →高齢者や障がい者、ベビーカー利用者など、多様な乗客の移動を支援し、公共交通の利便性の向上と持続可能な移動環境の実現に貢献する。						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【みどり市】更新時期に合わせてバリアフリー車両の導入				
②-1-2	駅機能の整備【①-1-6 再掲】						

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通						
②-2	快適性の向上						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none">「バスがいつ乗れるかわからず不安」と感じることや、運賃のキャッシュレス化の遅れなどによって、公共交通の利用にストレスを感じているため、快適性の向上が求められている。デジタル技術の活用や待合環境の改善を通じて、公共交通の利用をより快適にし、ストレスのない移動を実現することを目的とする。						
②-2-1	公共交通オープンデータの整備・活用						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		○
事業内容	<p>(1)「標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）」の整備を進め、インターネットでの経路検索をはじめ、デジタルサイネージでの運行案内、各種アプリとの連携など活用方法を検討する。</p> <p>→国土交通省では、経路検索に必要な情報の整備を促進するとともに、バス事業者と経路検索事業者等の情報利用者との間で、データの受け渡しが効率的に行われるよう、平成29年3月に、経路検索に必要な時刻表や運行経路等の静的情報を統一された様式でデータ化する方法を「標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）」として定めている。</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託事業者、みどり市】オープンデータの整備・活用の検討					

第3章 基本的な方針・目標、施策

②-2-2	出前講座等の開催						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		◎
事業内容	<p>(1)「みどり市どこでも出前講座」をはじめとした出前講座を実施し、公共交通の乗り方を学ぶとともに認知度や意識の向上を図り、公共交通利用への第一歩となるような機会を提供する。</p> <p>(2)市内の小中学生を対象に、みどり市の路線バス車両を使った「バスの乗り方教室」を開催する。公共交通の使い方を学ぶことで、バス利用への不安を減らし、気軽に乗れる環境づくりを目指す。</p> <p>(3)市内の中学生を対象に交通安全教育を行い、自転車事故発生の抑止に努める。特に岩宿駅周辺では発生密度が高いため、今後も継続的に実施し、注意喚起や周知を徹底していく。</p>						
エリア 路線等	● 各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、みどり市】出前講座の開催					
	(2)		【交通事業者・小中学校・みどり市】公共交通の乗り方教室の検討				
	(3)	【小中学校、みどり市】小中学生を対象とした交通安全教育の実施					

②-2-3	駅機能の整備【①-1-6 再掲】
②-2-4	AI オンデマンド交通システムの効果検証【①-2-1 再掲】
②-2-5	運賃のキャッシュレス化の導入【①-2-2 再掲】
②-2-6	バスロケーションシステムの導入検①-2-3 再掲】
②-2-7	デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】
②-2-8	MaaS システムの導入【①-2-6 再掲】

③	活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通						
③-1	まちづくりと連携した交通施策の推進						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市は、市町村合併により「笠懸町」「大間々町」「東町」とそれぞれの地理条件や人口規模が異なるため、立地適正化計画による「コンパクト」な市街地の形成と併せて、地域・生活拠点をつなぐ「ネットワーク」の維持・形成が必要となる。 ● みどり市観光振興計画と連携し、計画の柱の一つである「街道の文化を生かし、地域間の資源をつなぐ」に寄与する公共交通を実現する必要がある。 ● 「第2次みどり市総合計画」で掲げる将来像「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」の実現に向け、公共交通の分野からまちづくりを推進することを目的とする。 						
③-1-1	立地適正化計画との連携						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○					◎	○
事業内容	<p>(1) 立地適正化計画と一体となった施策を実施することで、住民移動の円滑化、地域の活性化を促進する。</p> <p>→立地適正化計画で位置づけた居住誘導区域と都市機能誘導区域、地域・生活拠点つなぐを路線バス、「電話でバス」の運行を継続し、市民や来訪者の移動を確保することで、生活の質の向上・地域の活性化に寄与する。</p>						
エリア 路線等	● 全域						
実施主体	● みどり市、交通事業者						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【みどり市】みどり市立地適正化計画の策定					
		【交通事業者、みどり市】立地適正化計画と連動した施策の推進					

第3章 基本的な方針・目標、施策

③-1-2	観光施策との連携						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
				◎		◎	
事業内容	<p>(1) 公共交通での来訪を促進するため、みどり市観光協会や交通事業者と連携し、周知・PRを強化する。</p> <p>→みどり市観光ポータルサイト（いろどりみどり市）を活用し、公共交通を利用したアクセス方法や運行状況を公開することで、公共交通利用のハードルを下げる。観光客の移動の周遊性を高め、新規の来訪者やリピーターの増加を促進する。</p> <p>→わたらせ渓谷鐵道沿線のサンレイク草木や水沼駅では開発が進み、みどり市・桐生市への来訪者の増加が見込まれる。</p>						
エリア 路線等	● 全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【みどり市観光協会、みどり市】いろどりみどり市の継続運営						
		【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】いろどりみどり市と連携した公共交通情報の発信					

③	活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通						
③-2	移動自体を楽しむ仕組みづくり						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none">来訪者アンケート結果では、みどり市を訪れる目的として「わたらせ渓谷の自然景観を楽しむ」「鉄道を楽しむ」ことが求められている。鉄道や路線バスを楽しみながら移動することで、地域自体の魅力を引き出し、住民や観光客が公共交通を利用する動機となる。公共交通を単なる移動手段とするのではなく、移動そのものを楽しめるようにし、みどり市ならではの特別な移動環境を整えることを目的とする。公共交通とまちなか活性化事業を組み合わせ、地域の活性化を推進することを目的とする。						
③-2-1	景観を活かした運行						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎		○
事業内容	<p>(1) みどり市の美しい景観を最大限に活用し、公共交通の魅力を向上させる。車窓からの風景を楽しめるルート設定や、観光資源と連携した特別運行を実施することで、移動そのものを体験型コンテンツとして提供する。</p> <p>→事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、「トロッコわたらせ渓谷号」「トロッコわっしー号」の運行</p> <p>→事例：みどり市観光協会による、「観光周遊バス（グリーンスローモビリティ）」の運行</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】景観を活かした運行の継続						
③-2-2	新たな移動サービスの調査・検討						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎		◎
事業内容	<p>(1) みどり市観光協会が運行している観光周遊バス（低速電動バス）だけでなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして、地域の活性化に寄与する新たな移動サービスの導入に向けた調査・検討を行う。</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】 新たな移動サービスの調査・検討					
③-2-3	グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】						

第3章 基本的な方針・目標、施策

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通						
④-1	官民連携した交通施策の推進						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none">群馬県主導の「沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」において、「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」の再構築を目的とした協議が行われており、『地域公共交通計画』の策定を目指している。市民の日常の移動において、桐生市との連携が求められている。群馬県及びみどり市と生活圏を共有する桐生市の連携を強化し、地域の活性化を促すことを目的とする。						
④-1-1	群馬県との連携強化						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
						◎	○
事業内容	(1) GunMaaS の活用や公共交通に関するイベントの開催など、群馬県との連携事業を一層強化するとともに、鉄道会社の現状分析等を踏まえた車両更新計画の検討や、各鉄道会社の経営力・企画力強化に向けたサポート体制の導入を進めます。併せて、鉄道沿線にもたらす効果を最大化する取組を検討し、地域の活性化につなげます。						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)		【交通事業者、群馬県、みどり市】連携強化に向けた取組の検討・実施				
							→
④-1-2	桐生市との連携強化						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○					◎	
事業内容	(1) バス交通について、桐生市との乗り入れポイントを拡充し、市民のさらなる利便性向上を図る。 (2) 将来的には両市での一体的なバス路線体系の構築を目指す。						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">桐生市（おりひめバス）、みどり市（大間々・笠懸路線バス、「電話でバス」）						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、桐生市、みどり市】両市での相互乗り入れの継続・強化					
	(2)	【交通事業者、桐生市、みどり市】両市での一体的なバス路線体系の検討					
							→

④-1-3		市民団体等による環境整備・情報発信					
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	◎	
事業内容	<p>(1) わたらせ渓谷鐵道を支える人々として、「ふるさと駅長」、「わたらせ渓谷鐵道市民協議会」の呼びかけによる活動、「わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション事業実行委員会」、「郷土を美しくする会」など、多様な主体が活動している。これらの市民団体は、わ鐵のみならず、みどり市全体の環境整備や観光情報の発信にも取り組んでおり、活動を通じて今後もみどり市の魅力を発信する。その一方で、各市民団体の高齢化により活動の継続が課題となっているため、持続的な活動を可能にする仕組みづくりや世代を超えた参加促進を図り、地域の魅力発信を安定的に進めていく。</p> <p>(2) 若者の視点で見つけたみどり市の魅力を写真に収め、情報を発信する市民 PR チーム「み撮り部」が発足した。今後は活動の範囲を公共交通の分野にも広げ、行政・交通事業者・利用者・その他関係者と連携しながら、公共交通にとどまらず地域全体の魅力を発信する。</p> <p>◎ 「わたらせ渓谷鐵道市民協議会」の呼びかけによる活動（ピカピカ大作戦）</p> <p>◎ 「わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション実行委員会」の活動（大間々駅の飾り付け）</p>						
							
	出典：わたらせ渓谷鐵道 HP			出典：わたらせ渓谷鐵道 HP			
	◎ 「郷土を美しくする会」の活動			◎ 市民PRチーム「み撮り部」			
							
出典：わたらせ渓谷鐵道 HP			出典：みどり市 HP				
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none">● 市内全域● 全ての公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【わ鐵を支える人々】みどり市の魅力を発信					
	(2)	【み撮り部】みどり市の魅力を発信					
④-1-4		日本版ライドシェアの導入検討【①-1-7 再掲】					

第3章 基本的な方針・目標、施策

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通						
④-2	地域企業との連携						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> わたらせ渓谷鐵道では、運賃外収入としてグッズの販売を行っているが、地元企業のPRを同時に行っている。 公共交通を単なる移動手段として利用するのではなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして活用し、地域の活性化につなげることを目的とする。 さらに、わたらせ渓谷鐵道は地域に根ざした鉄道として、地域ブランドの認知度を高めるとともに利便性を向上させ、持続可能な社会づくりを推進する。 						
④-2-1	地元企業産のグッズの販売						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					○	◎	
事業内容	<p>(1) 地域の公共交通機関と地元企業が連携し、特産品やオリジナルグッズの販売を通じて、地域活性化と公共交通の利用促進を図る。駅やバス停、車両内などのスペースを活用し、観光客や通勤・通学者に向けて地元企業産の魅力ある商品・情報を提供する。</p> <p>→オンライン販売や乗車特典の限定アイテム展開を通じて、公共交通の利用価値を高めるとともに、地域経済への貢献を強化や乗務員確保に貢献をする。</p> <p>→事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、織物鐵印の販売</p> <p>→事例：上毛電気鐵道(株)による、地元企業産グッズ等の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> 「桐生織」による織物鐵印 車掌・運転士・車両バッチ <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">出典：わたらせ渓谷鐵道 HP</p> <p style="text-align: right;">出典：上毛電気鐵道 HP</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> 各公共交通 主要な鉄道駅 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者、みどり市】鉄道各社の実施継続						
	【交通事業者・みどり市】みどり市、みどり市観光協会での導入検討						

④-2-2	広告協賛事業の導入						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		
事業内容	<p>(1) 鉄道・バス車両や時刻表への広告掲載、停留所のネーミングライツ、車両ラッピングなどの協賛金により、運賃外収入を確保する。</p> <p>● つり革オーナー制度</p>  <p>出典：上毛電気鉄道 HP</p> <p>● まくら木オーナー制度</p>  <p>出典：上毛電気鉄道 HP</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内全域 ● 各公共交通 ● 主要な鉄道駅 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	<p>【鉄道事業者】鉄道各社での実施継続</p> <p>→</p> <p>【委託事業者、みどり市】みどり市路線バス、「電話でバス」での導入検討</p> <p>→</p>						

④-2-3	商業施設・医療施設との連携						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					○	◎	
事業内容	<p>(1) 公共交通利用者向けの施設内優待サービスの提供、乗車券と施設利用特典を組み合わせたキャンペーンなどの実施を検討する。</p> <p>→公共交通と商業施設・医療施設が連携し、地域住民や訪問者の移動利便性を向上させるとともに、施設利用の利便性を図る。</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内全域 ● 各公共交通 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	<p>【民間事業者・委託事業者・みどり市】さくらモールでの割引券の発行の継続</p> <p>→</p> <p>【民間事業者・委託事業者・みどり市】他の商業施設・医療施設との連携の検討</p> <p>→</p>						

第3章 基本的な方針・目標、施策

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通						
④-3	公共交通の実態の周知						
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の移動の8割程度が、自動車での移動であり、公共交通に対する意識が低く、公共交通が利用されていない。 ● 公共交通を利用する人は、公共交通への意識が高い傾向がある一方で、通学時に鉄道を利用していない高校生は、その意識が低く、将来的に公共交通を利用しなくなる可能性が懸念される。 ● 移動手段を提供するだけでなく、公共交通の現状と将来のあり方を共に考え、利便性の向上とサービス認知度の拡大を図り、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。 						
④-3-1	公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
事業内容	(1) モニタリングを通じて施策の効果を評価し、必要に応じて改善を行うため、利用者数の調査やアンケートを実施し、地域交通のニーズの変化を把握する。 →利用実態のない区間やバス停留所について、随時見直しを行うための根拠資料として活用する。						
エリア 路線等	● 各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者・みどり市】利用実態調査・モニタリングの継続 <div></div>						
④-3-3	公共交通イベントの開催【①-3-1 再掲】						
④-3-4	広報戦略の改善【①-3-4 再掲】						
④-3-5	出前講座等の開催【②-2-2 再掲】						

第4章 計画の評価・進行管理

4-1 評価指標・目標値

(1) 数値指標・目標値の考え方

施策・取組の実施状況、目標の達成状況を確認するため、評価指標・目標値を設定します。

「評価指標」とは、目標の達成状況を適切に表現し、定量的に評価しやすくするための指標として設定するものであり、住民や交通利用者目線でわかりやすい指標を選定することが重要となります。

みどり市地域公共交通計画では、各目標に対して「評価指標」を設定し、施策・取組の実施状況、目標の達成状況を把握し、評価・改善を行います。

◎ 評価指標と目標の関係

目標① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

目標② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

目標③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

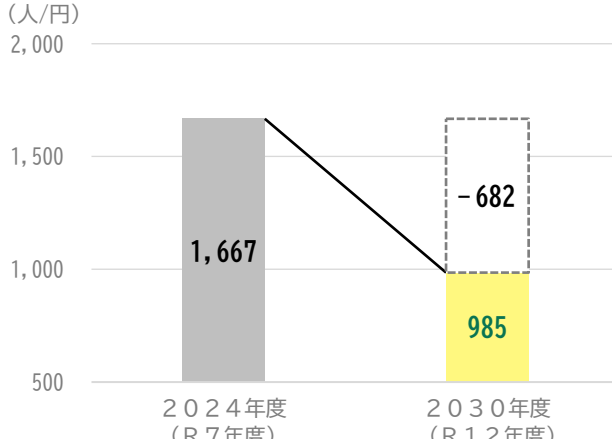
目標④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

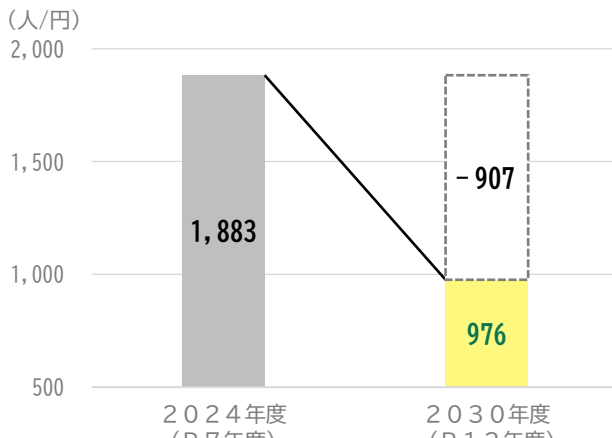
No	評価指標	基準値	目標値	単位	目標			
					①	②	③	④
1	鉄道（市内 11 駅）の利用者数	141	168	万人/年	○			
2	大間々・笠懸路線バスの利用者数	9,456	16,000	人/年	○			
3	東町路線バス（美術館線）の利用者数	4,858	9,000	人/年	○			
4	「電話でバス」の利用者数	20,336	28,600	人/年	○			
5	大間々・笠懸路線バスの利用者 1 人当たりの財政負担額	1,667	985	円/人	○			
6	東町路線バス（美術館線）の利用者 1 人当たりの財政負担額	1,883	976	円/人	○			
7	「電話でバス」の利用者 1 人当たりの財政負担額	3,031	2,308	円/人	○			
8	移動に困らない市民の割合（70 才以上）	73.2	81.0	%	○	○		
9	わたらせ渓谷鐵道の定期外利用者数	19.8	24.8	万人/年			○	
10	公共交通に関するイベント・教室の参加人数	0	前年度より増加	人/年	○			○
11	電気バス利用による CO2 の削減量	2,830	5,667	kg				○

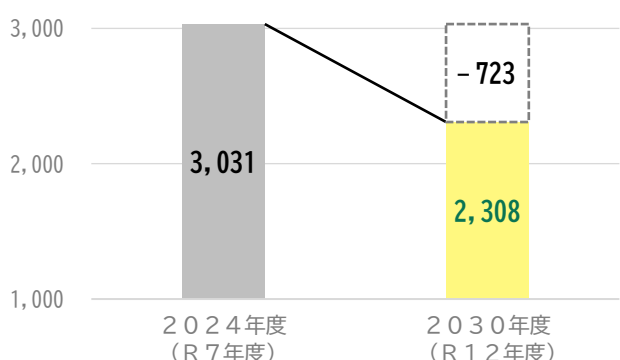
1 鉄道（市内 11 駅）の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
141	168	万人	<div>現状市民 1 人あたり年間約 29 回の利用 [2025 年 4 月時点の総人口：48,269 人]</div> <div>↓</div> <div>目標市民 1 人当たり年間 36 回以上 （現状+7 回）の利用 [2030 年の推計値の総人口：47,127 人]</div>
<div>(万人)</div>  <div>2024年度 (R7年度) 2030年度 (R12年度)</div>			<div>算出方法</div> <div>・ 市内 11 駅の年間利用者数の合計</div>
2 大間々・笠懸路線バスの利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
9,456	16,000	人	<div>現状市民の 5 人に 1 人しか利用していない （市民 1 人あたり約 0.2 回の利用） [2025 年 4 月時点の総人口：48,269 人]</div> <div>↓</div> <div>目標市民の 3 人に 1 人は年間 1 回以上の利用 [2030 年の推計値の総人口：47,127 人]</div>
<div>(人)</div>  <div>2024年度 (R7年度) 2030年度 (R12年度)</div>			<div>算出方法</div> <div>・ 年間利用者数</div>
3 東町路線バス（美術館線）の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
4,858	9,000	人	<div>現状市民の 10 人に 1 人しか利用していない （市民 1 人あたり約 0.1 回の利用） [2025 年 4 月時点の総人口：48,269 人]</div> <div>↓</div> <div>目標市民の 5 人に 1 人は年間 1 回以上の利用 [2030 年の推計値の総人口：47,127 人]</div>
<div>(人)</div>  <div>2024年度 (R7年度) 2030年度 (R12年度)</div>			<div>算出方法</div> <div>・ 年間利用者数</div>

第4章 計画の評価・進行管理

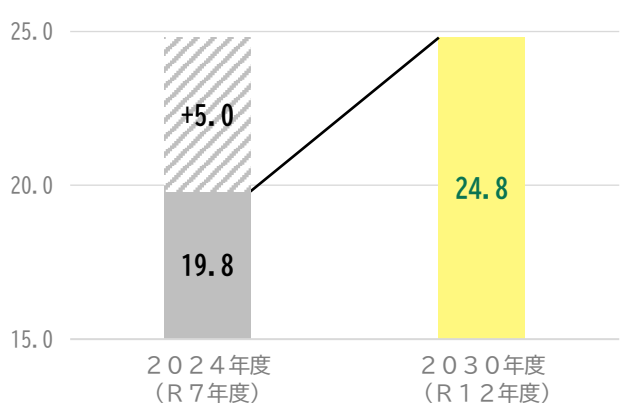
4	「電話でバス」の利用者数									
基準値		目標値	単位	目標値の考え方						
20,336		28,600	人	現状市民の約3人に1人の利用 (市民1人あたり約0.4回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人] ↓ 目標市民2人に1人は年間1回以上の利用 または、現状利用者の利用回数を1.4倍にする [2030年の推計値の総人口：47,127人]						
<div>(人)</div>  <table><tr><th>年度</th><th>利用者数 (人)</th></tr><tr><td>2024年度 (R7年度)</td><td>20,336</td></tr><tr><td>2030年度 (R12年度)</td><td>28,600</td></tr></table>				年度	利用者数 (人)	2024年度 (R7年度)	20,336	2030年度 (R12年度)	28,600	算出方法
年度	利用者数 (人)									
2024年度 (R7年度)	20,336									
2030年度 (R12年度)	28,600									
				・年間利用者数						

5	大間々・笠懸路線バスの利用者1人当たりの財政負担額									
基準値		目標値	単位	目標値の考え方						
1,667		985	円/人	・人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す						
<div>(人/円)</div>  <table><tr><th>年度</th><th>負担額 (円/人)</th></tr><tr><td>2024年度 (R7年度)</td><td>1,667</td></tr><tr><td>2030年度 (R12年度)</td><td>985</td></tr></table>				年度	負担額 (円/人)	2024年度 (R7年度)	1,667	2030年度 (R12年度)	985	算出方法
年度	負担額 (円/人)									
2024年度 (R7年度)	1,667									
2030年度 (R12年度)	985									
				・年間補助額（国・県・市の補助金の合計）/利用者数						

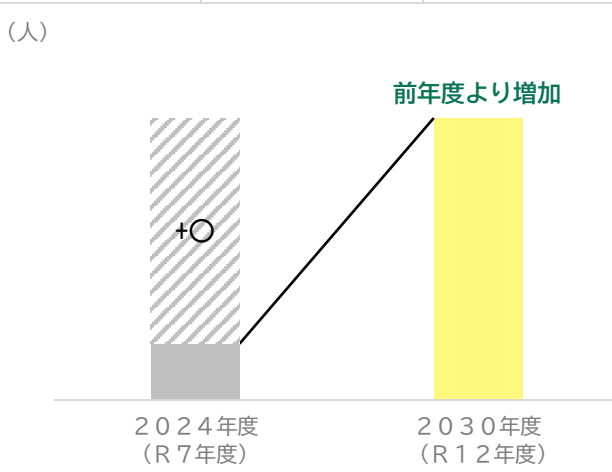
6	東町路線バス（美術館線）の利用者1人当たりの財政負担額									
基準値		目標値	単位	目標値の考え方						
1,883		976	円/人	・人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す。						
<div>(人/円)</div>  <table><tr><th>年度</th><th>負担額 (円/人)</th></tr><tr><td>2024年度 (R7年度)</td><td>1,883</td></tr><tr><td>2030年度 (R12年度)</td><td>976</td></tr></table>				年度	負担額 (円/人)	2024年度 (R7年度)	1,883	2030年度 (R12年度)	976	算出方法
年度	負担額 (円/人)									
2024年度 (R7年度)	1,883									
2030年度 (R12年度)	976									
				・年間補助額（国・県・市の補助金の合計）/利用者数						

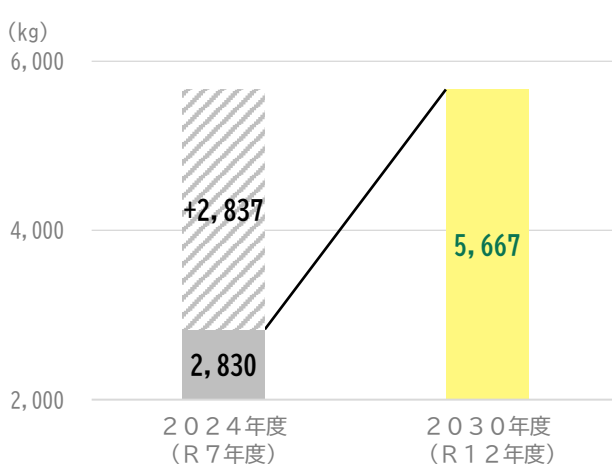
7	「電話でバス」の利用者1人当たりの財政負担額			
基準値		目標値	単位	目標値の考え方
3,031		2,308	円/人	・ 人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す。
(人/円)				
				
2024年度 (R7年度)				2030年度 (R12年度)
				算出方法
				・ 年間補助額（国・県・市の補助金の合計）/利用者数

8	移動に困らない市民の割合（70歳以上）			
基準値		目標値	単位	目標値の考え方
73.2		81.0	%	・ 2024年度の70歳未満の移動に困らない市民の割合（81%）と同水準まで引き上げ、市全体の移動困難者を目指す
(%)				
				
2024年度 (R7年度)				2030年度 (R12年度)
				算出方法
				・ まちづくり市民アンケートで「困っていない」「あまり困っていない」を選択した割合

9	わたらせ渓谷鐵道の定期外利用者数			
基準値		目標値	単位	目標値の考え方
19.8		24.8	万人	・ 様々な観光施策との連動により達成を目指す ・ 過去10年で最高である2015年度（平成27年度）値を目指す。
(万人)				
				
2024年度 (R7年度)				2030年度 (R12年度)
				算出方法
				・ 年間の定期外利用者数（トロッコわたらせ渓谷号・トロッコわっしー号を含む）

第4章 計画の評価・進行管理

10	公共交通に関するイベント・教室の参加人数		
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
0	前年度より増加	人/年	・ 公共交通への理解を深める活動を毎年実施し、興味・関心の向上により前年度より増加を目指す
<div>(人)</div> <div><p>前年度より増加</p><p>2024年度 (R7年度) 2,830</p><p>2030年度 (R12年度) 5,667</p></div>			
算出方法			
			・ みどり市が関係する公共交通に関するイベント・教室の参加人数の合計

11	電気バス利用による CO2 の削減量		
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
2,830	5,667	kg	・ No.2「大間々・笠懸路線バスの利用者数」を踏まえ、設定
<div>(kg)</div> <div><p>+2,837</p><p>2,830</p><p>2024年度 (R7年度) 2,830</p><p>2030年度 (R12年度) 5,667</p></div>			
算出方法			
			・ 電気バス利用者数*電気バス利用による 1 人当たりの CO2 削減量
			・ 0.75t（電気バス利用による 1 人当たりの CO2 削減量）＝2.32kg/ℓ（CO2 排出量原単位）*4.0km（電気バス往復運行距離）/12.3km/ℓ（一般的な自動車の燃費）

4-2 計画の推進・進行管理

(1) 計画の実施主体・役割

本計画を進める上で、行政・交通事業者・利用者に加え、みどり市内の商業・観光事業者なども交えた関係者間による協働・連携により、計画目標の達成に向けて施策を実行していく必要があります。このため、それぞれの役割分担や協力体制を明確にし、進めていくことが計画の実現には必要となります。

以下に、本計画を推進するための、実施主体・役割・期待される効果を示します。

◎ 計画推進の実施主体・役割・期待される効果

役割：その主体が行うことを意味します

効果：主体による働きかけで得られるであろう期待される効果を意味します

みどり市地域公共交通活性化協議会



役割：計画に基づく事業を推進し、関係者間の調整や評価・検証を行い、市民へ情報を公開。
効果：透明性ある運営により、市民が安心して未来を共有でき、協働意識が育まれる。

行政（みどり市、桐生市、群馬県等）



役割：施策の調整役として関係者を支え、計画を着実に推進。
効果：施策が途切れず実行され、市民が暮らしやすさを実感できる地域づくりにつながる。

交通事業者（鉄道、バス、タクシー事業者等）



役割：計画に基づき公共交通サービスを提供し、関係者と連携。
効果：安全で便利な移動手段を確保し、市民や観光客の安心感と地域への愛着を高める。

利用者（市民、観光客等）



役割：公共交通を積極的に利用し、イベントに参加。
効果：一人ひとりの行動が交通体系を育て、利用者の声が改善につながる。

小学生・中学生



役割：日常的に公共交通を利用し、イベントに参加。
効果：子どもの視点が改善点を示し、「子どもに優しい交通＝誰にでも優しい交通」を実現。

高校生・大学生



役割：通学や生活で公共交通を利用し、その魅力を発信。
効果：若者の発信が交通の魅力を広げ、持続可能な利用習慣を形成する。

市民団体



役割：地域づくりや鉄道沿線の活性化活動を展開。
効果：市民主体の活動が地域の魅力を高め、公共交通への愛着を醸成する。

商業・観光関係者



役割：まちづくりと一体となった公共交通への取組を推進。
効果：公共交通と地域経済・観光が結びつき、利用者増加と地域活性化を実現。

(2) 計画の進捗管理と評価

本計画を実行し、効果を得ていくためにPDCAサイクルにより進捗確認と評価を行います。

事業の評価にあたっては、「みどり市地域公共交通活性化協議会」において、毎年評価を実施し、その結果に応じて次年度以降の改善策の検討を行います。

計画期間最終年には、期間中のPDCAの結果に基づいた整理を行い、次期計画へと反映します。

◎ 計画推進のスケジュール

